

令和4年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査
報告書

令和5年10月

日本私立短期大学協会
就職問題委員会

目 次

	頁
調査の概要	1
平成5年度～令和4年度卒業生における就職決定率の推移	3
私立短大卒業生の進路状況	4
私立短大卒業生における就職決定者の状況	5
正規雇用率の推移	6
地域別正規雇用率の推移	7
令和4年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果	
1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	8
2 地域別の就職以外の進路者数	10
* 企業・団体の正規雇用率の推移	11
・企業・団体における地域別雇用形態の状況	12
* 幼稚園教諭の正規雇用率の推移	13
・幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況	14
* 保育士の正規雇用率の推移	15
・保育士の地域別雇用形態の状況	16
* 保育教諭の地域別雇用形態の状況	17
* 介護福祉士の正規雇用率の推移	18
・介護福祉士の地域別雇用形態の状況	19
* 栄養士の正規雇用率の推移	20
・栄養士の地域別雇用形態の状況	21
* その他の（国家資格・免許を必要とする）専門職の雇用形態の状況	22
* 公務員の地域別雇用形態の状況	23
* 令和4年度就職・採用活動における総括について（具体的記述内容）	24
付・調査回答フォーム	36
・就職問題委員会委員一覧	

調査の概要

1) 調査の目的

毎年度、日本私立短期大学協会に加盟の会員短大を対象に卒業後の状況調査を実施することにより、地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数・就職以外の進路者数等について把握し、今後の私立短期大学におけるよりよい就職支援を模索するための基礎資料とする。

なお、短期大学卒業生の雇用形態の状況を把握するため、就職決定者の正規雇用、非正規雇用の具体的人数を調査し、その結果から、近年特に問題視されている労働条件、処遇等に対する喫緊の課題に取り組む資料とする。

また、自県内就職者数を調査することにより、地域に密着した短期大学の状況をより正確に把握するための資料としたい。

2) 調査対象

日本私立短期大学協会加盟の280短大のうち、第2部(夜間部)のみ設置の4短大および通信教育課程のみ設置短大1校を除く275短大における第1部(昼間部)学科。

3) 調査方法

事務局より、メールにて各短大学長あて、「令和4年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」について調査依頼を行い、Googleフォームにより回答を求めた。

4) 調査時期

令和5年6月20日～7月11日

5) 集計回答校数

集計回答校数は、275短大中、275短大。(回答率100%)

(参考)	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
調査対象校	489	491	488	490	485
回答校数	467	454	458	458	460
回答率(%)	95.5	92.5	93.9	93.5	94.8
	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
調査対象校	484	470	457	442	428
回答校数	449	447	435	414	406
回答率(%)	92.8	95.1	95.2	93.7	95.0
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
調査対象校	405	391	376	366	357
回答校数	402	386	368	360	327
回答率(%)	99.3	98.7	97.9	98.4	91.6
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
調査対象校	350	342	336	331	325
回答校数	326	333	327	331	323
回答率(%)	93.1	97.4	97.3	100.0	99.4
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調査対象校	320	314	309	305	298
回答校数	319	313	309	305	298
回答率(%)	99.7	99.7	100.0	100.0	100.0
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
調査対象校	296	291	286	281	275
回答校数	296	291	286	281	275
回答率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6) 集計件数

就職決定者の各集計件数は、下記の通り。

	企業・団体	公務員	幼稚園教諭	保育士	保育教諭	栄養士	介護福祉士	その他の 専門職
北海道	12	9	10	10	10	2	4	5
東北	22	14	17	18	18	7	10	5
関東	48	24	38	37	36	9	10	17
東京	28	9	13	10	9	1	8	12
中部	43	20	27	31	29	8	13	22
近畿	30	14	21	22	22	6	6	9
大阪	20	10	14	14	14	4	4	7
中国	16	6	15	15	15	1	7	7
四国	9	6	6	8	7	3	4	3
九州	34	18	27	28	27	10	15	13

7) 地域の分類

地域の表記については、本協会の支部の区分による下記 9 ブロックとする。

なお、各地域の当該県は次の通り。

北海道

東北 … 青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

関東 … 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨

東京

中部 … 富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重

近畿 … 滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山

大阪

中四国 (中国) … 鳥取、岡山、広島、山口 (四国) … 徳島、香川、愛媛、高知

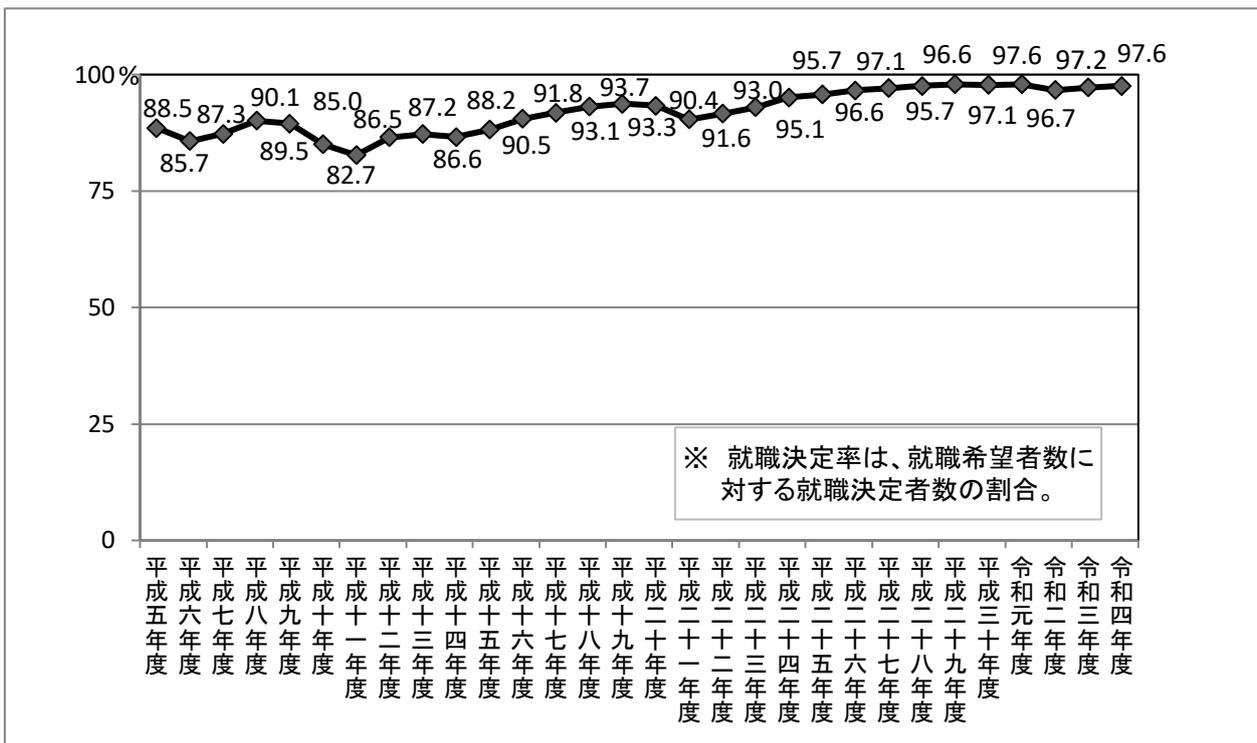
九州 … 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

8) 報告書作成にあたって

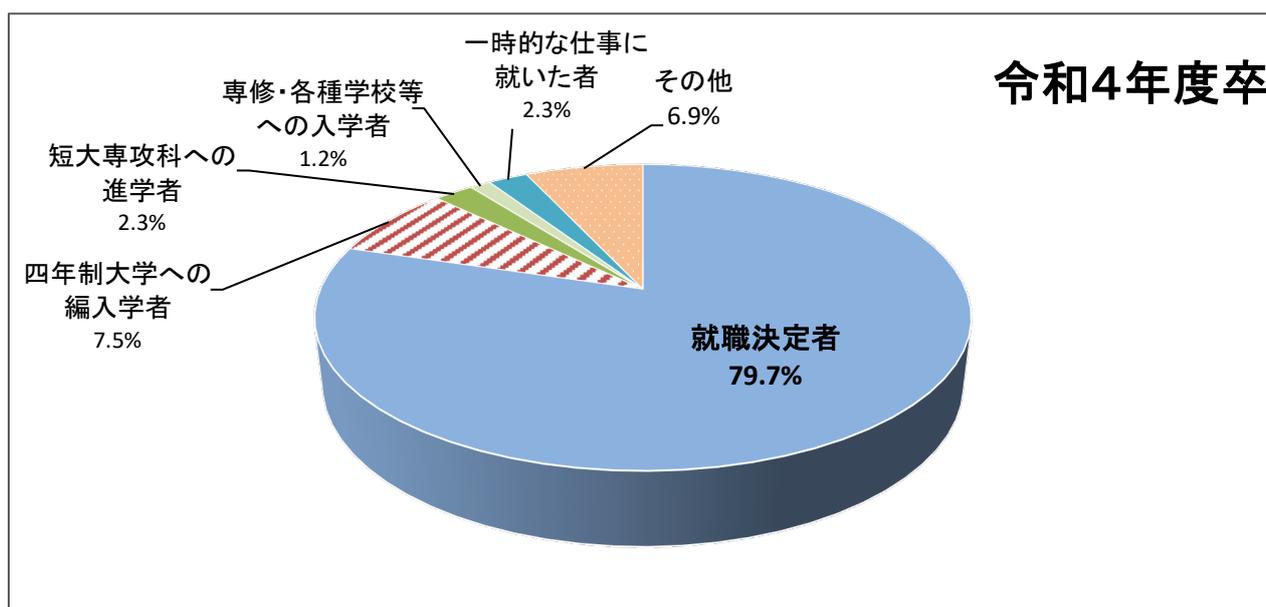
コンピュータ集計により得られた結果を基に作表した。

平成5年度～令和4年度卒業生における就職決定率の推移

当 該 年 度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
	平成6年3月卒	平成7年3月卒	平成8年3月卒	平成9年3月卒	平成10年3月卒
就職決定率	88.5	85.7	87.3	90.1	89.5
当 該 年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
	平成11年3月卒	平成12年3月卒	平成13年3月卒	平成14年3月卒	平成15年3月卒
就職決定率	85.0	82.7	86.5	87.2	86.6
当 該 年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
	平成16年3月卒	平成17年3月卒	平成18年3月卒	平成19年3月卒	平成20年3月卒
就職決定率	88.2	90.5	91.8	93.1	93.7
当 該 年 度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	平成21年3月卒	平成22年3月卒	平成23年3月卒	平成24年3月卒	平成25年3月卒
就職決定率	93.3	90.4	91.6	93.0	95.1
当 該 年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	平成26年3月卒	平成27年3月卒	平成28年3月卒	平成29年3月卒	平成30年3月卒
就職決定率	95.7	96.6	97.1	97.6	97.9
当 該 年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	平成31年3月卒	令和2年3月卒	令和3年3月卒	令和4年3月卒	令和5年3月卒
就職決定率	97.8	97.9	96.7	97.2	97.6



私立短大卒業生の進路状況

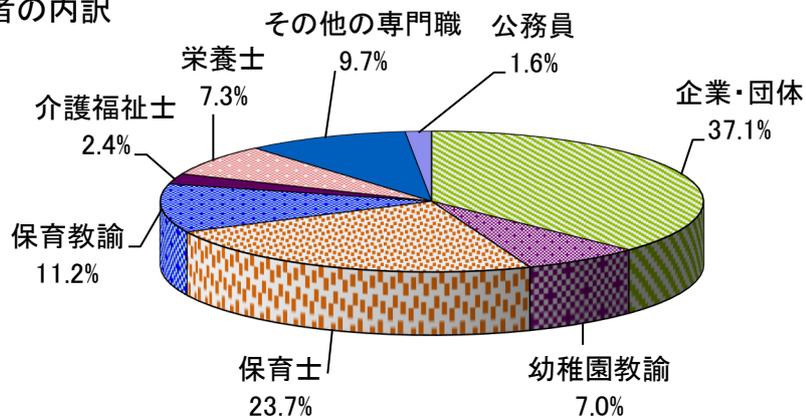


経年の割合	卒業者数	就職決定者	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学	一時的な仕事に就いた者	その他
令和4年度	38,906	30,992	2,931	905	478	904	2,696 (人)
	(100%)	79.7	7.5	2.3	1.2	2.3	6.9 (%)
令和3年度	(100%)	77.7	8.5	2.3	1.7	2.3	7.5
令和2年度	(100%)	79.4	7.2	1.9	1.3	2.3	7.8
令和元年度	(100%)	82.5	6.1	2.0	1.1	1.7	6.5
平成30年度	(100%)	82.9	5.6	2.1	1.3	1.9	6.3
平成29年度	(100%)	82.8	5.7	2.4	1.2	1.8	6.1
平成28年度	(100%)	81.6	5.8	2.5	1.4	2.1	6.5
平成27年度	(100%)	79.9	6.2	2.8	1.6	2.4	7.1
平成26年度	(100%)	78.9	6.2	2.8	1.5	2.4	8.3
平成25年度	(100%)	76.3	6.7	3.1	1.7	3.0	9.2
平成24年度	56,878	42,391	3,954	1,741	1,171	1,910	5,711 (人)
	(100%)	74.5	7.0	3.1	2.1	3.4	10.0 (%)

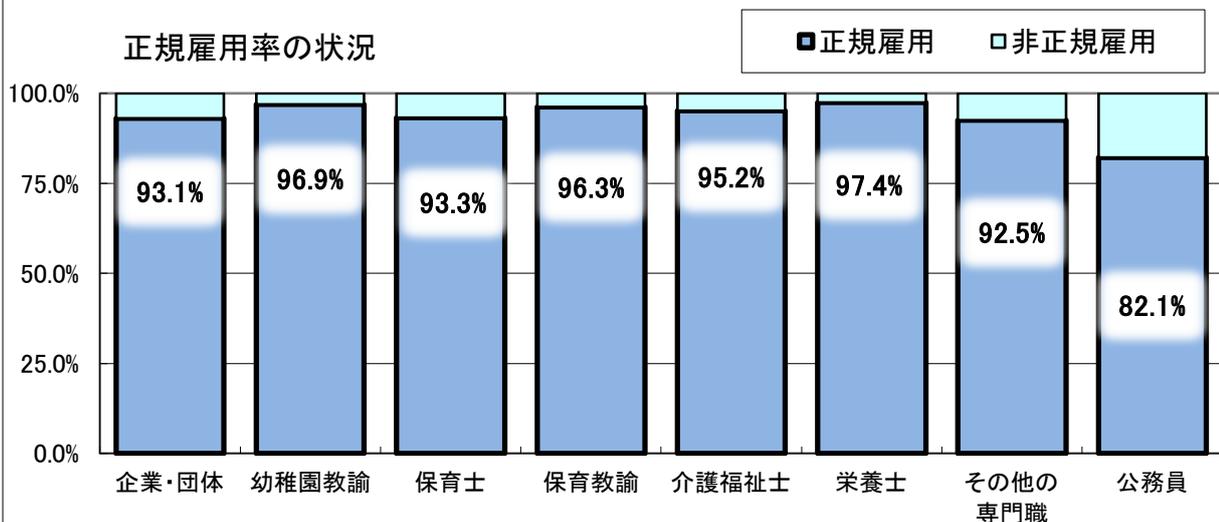
私立短大卒業生における就職決定者の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
企業・団体	11503	10709	794	93.1%
幼稚園教諭	2174	2106	68	96.9%
保育士	7338	6846	492	93.3%
保育教諭	3458	3329	129	96.3%
介護福祉士	744	708	36	95.2%
栄養士	2273	2213	60	97.4%
その他の専門職	3015	2790	225	92.5%
公務員	487	400	87	82.1%
計	30,992	29,101	1,891	93.9%

就職決定者の内訳

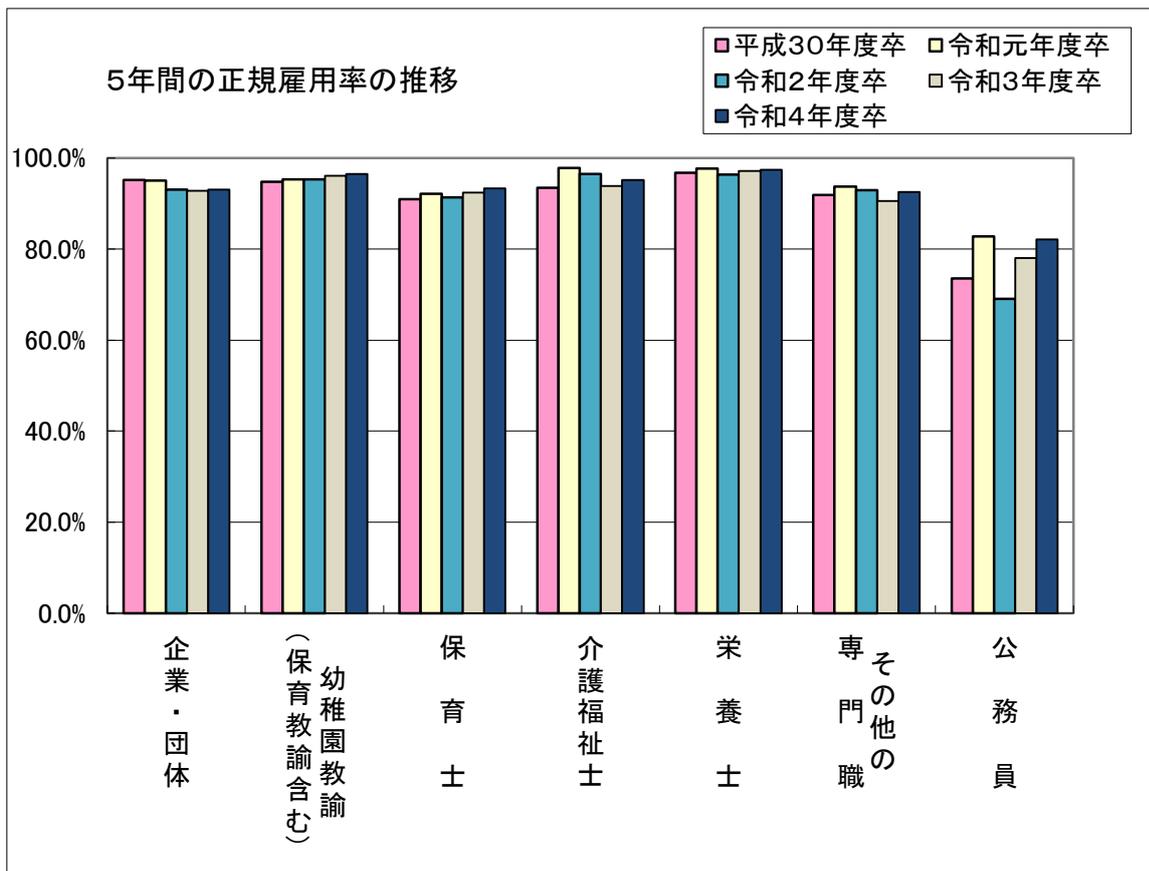


正規雇用率の状況



正規雇用率の推移

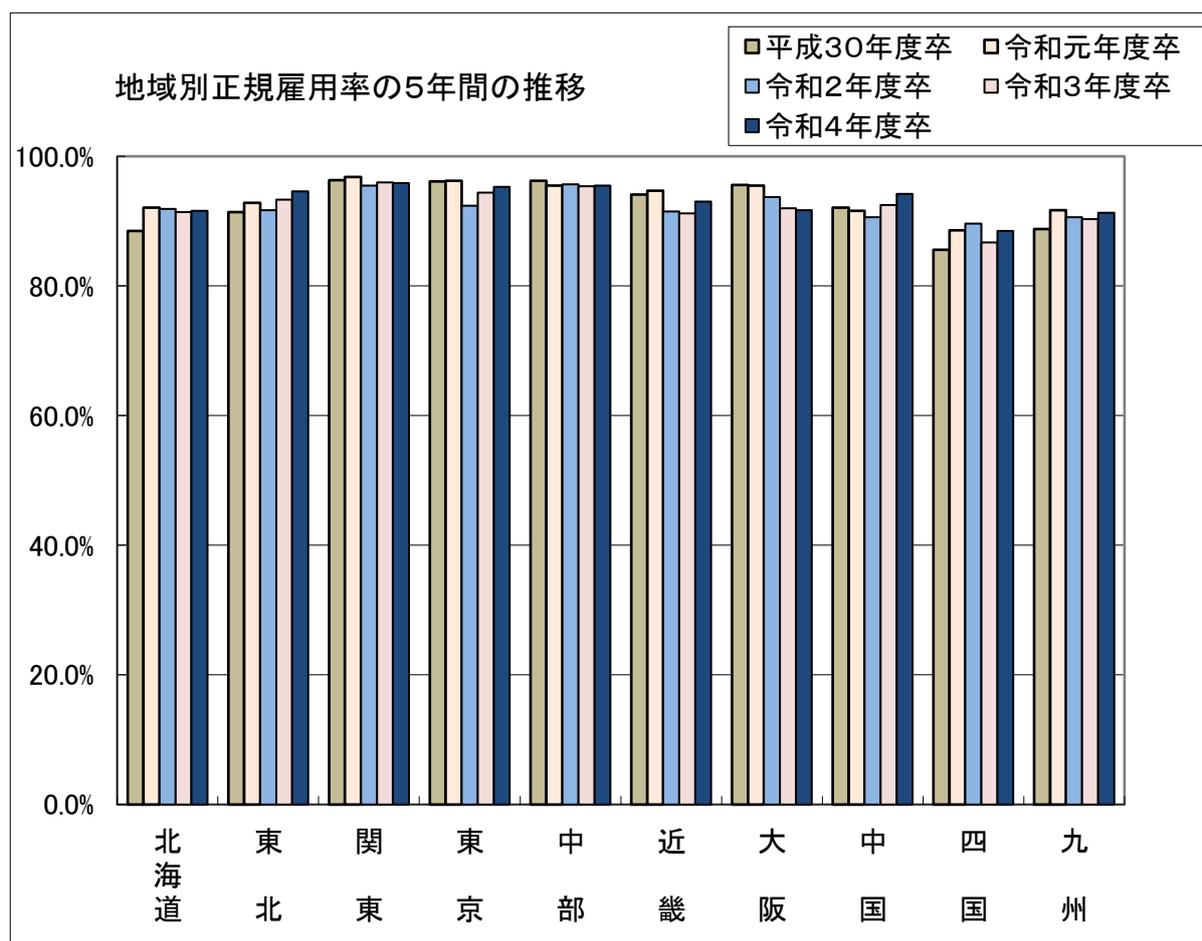
	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
企業・団体	95.2%	95.0%	93.1%	92.8%	93.1%
幼稚園教諭 (保育教諭含む)	94.8%	95.3%	95.3%	96.1%	96.5%
保育士	90.9%	92.2%	91.3%	92.4%	93.3%
介護福祉士	93.5%	97.8%	96.5%	93.8%	95.2%
栄養士	96.7%	97.7%	96.4%	97.1%	97.4%
その他の 専門職	91.9%	93.7%	93.0%	90.5%	92.5%
公務員	73.5%	82.8%	69.0%	78.0%	82.1%
計	93.7%	94.4%	93.1%	93.3%	93.9%



※保育教諭は、「令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」まで[幼稚園教諭]に含めて集計していたため、上記表・グラフでは[幼稚園教諭]に含めて経年比較している。

地域別正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道	88.5%	92.1%	91.9%	91.4%	91.6%
東北	91.4%	92.8%	91.7%	93.3%	94.6%
関東	96.3%	96.8%	95.5%	96.0%	95.9%
東京	96.1%	96.2%	92.4%	94.4%	95.3%
中部	96.2%	95.5%	95.7%	95.4%	95.5%
近畿	94.1%	94.7%	91.5%	91.2%	93.0%
大阪	95.6%	95.5%	93.7%	92.0%	91.7%
中国	92.1%	91.6%	90.6%	92.5%	94.2%
四国	85.6%	88.6%	89.6%	86.7%	88.5%
九州	88.8%	91.7%	90.6%	90.3%	91.3%
全国	93.7%	94.4%	93.1%	93.3%	93.9%



令和4年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果

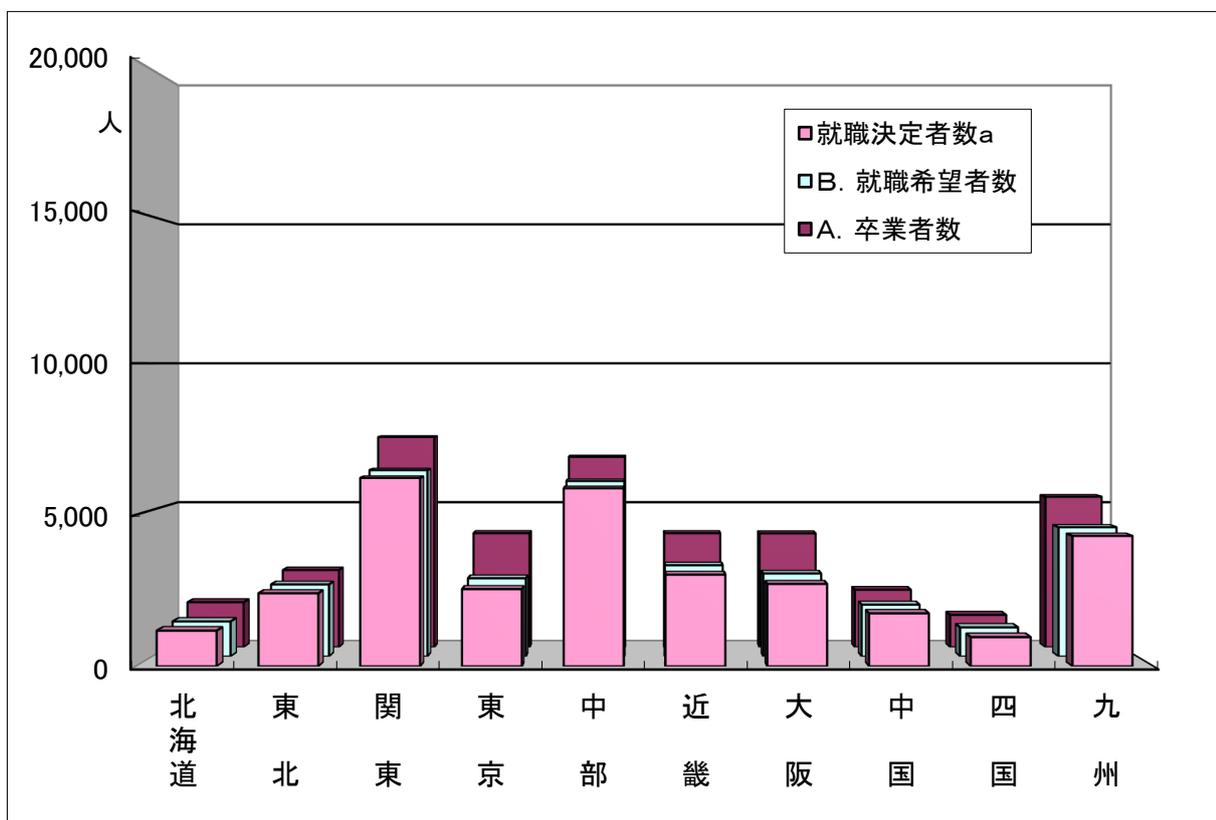
1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

	卒業生数 A	就職 希望者数 B	就職 決定者数 a	自県内 就職者数 c	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職者 の割合 a/A (%)	自県内 就職率 c/a (%)
全 国	38,906	31,763	30,992	22,956	81.6	97.6	79.7	74.1
北海道	1,586	1,195	1,178	1,129	75.3	98.6	74.3	95.8
東 北	2,715	2,456	2,411	1,782	90.5	98.2	88.8	73.9
関 東	7,400	6,355	6,216	4,364	85.9	97.8	84.0	70.2
東 京	4,015	2,667	2,548	1,556	66.4	95.5	63.5	61.1
中 部	6,704	5,983	5,875	4,669	89.2	98.2	87.6	79.5
近 畿	4,014	3,111	3,026	1,850	77.5	97.3	75.4	61.1
大 阪	4,009	2,829	2,720	2,028	70.6	96.1	67.8	74.6
中四国	3,162	2,758	2,714	2,144	87.2	98.4	85.8	79.0
中 国	2,024	1,766	1,750	1,333	87.3	99.1	86.5	76.2
四 国	1,138	992	964	811	87.2	97.2	84.7	84.1
九 州	5,301	4,409	4,304	3,434	83.2	97.6	81.2	79.8

地域別就職決定者の雇用形態別内訳

	就職 決定者数	正 規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規雇用率
全 国	30,992	29,101	1,891	93.9%
北 海 道	1,178	1,079	99	91.6%
東 北	2,411	2,282	129	94.6%
関 東	6,216	5,964	252	95.9%
東 京	2,548	2,428	120	95.3%
中 部	5,875	5,609	266	95.5%
近 畿	3,026	2,815	211	93.0%
大 阪	2,720	2,494	226	91.7%
中 四 国	2,714	2,501	213	92.2%
中 国	1,750	1,648	102	94.2%
四 国	964	853	111	88.5%
九 州	4,304	3,929	375	91.3%

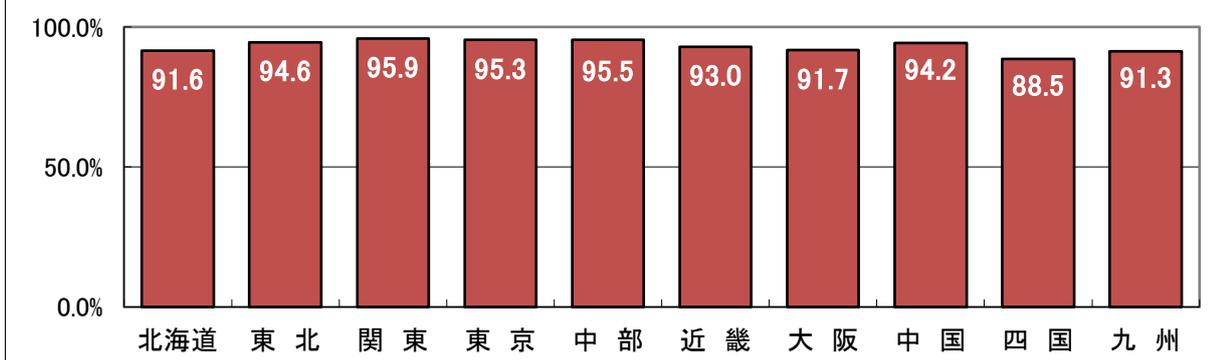
地域別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数



地域別自県内就職率



地域別就職決定者の正規雇用率

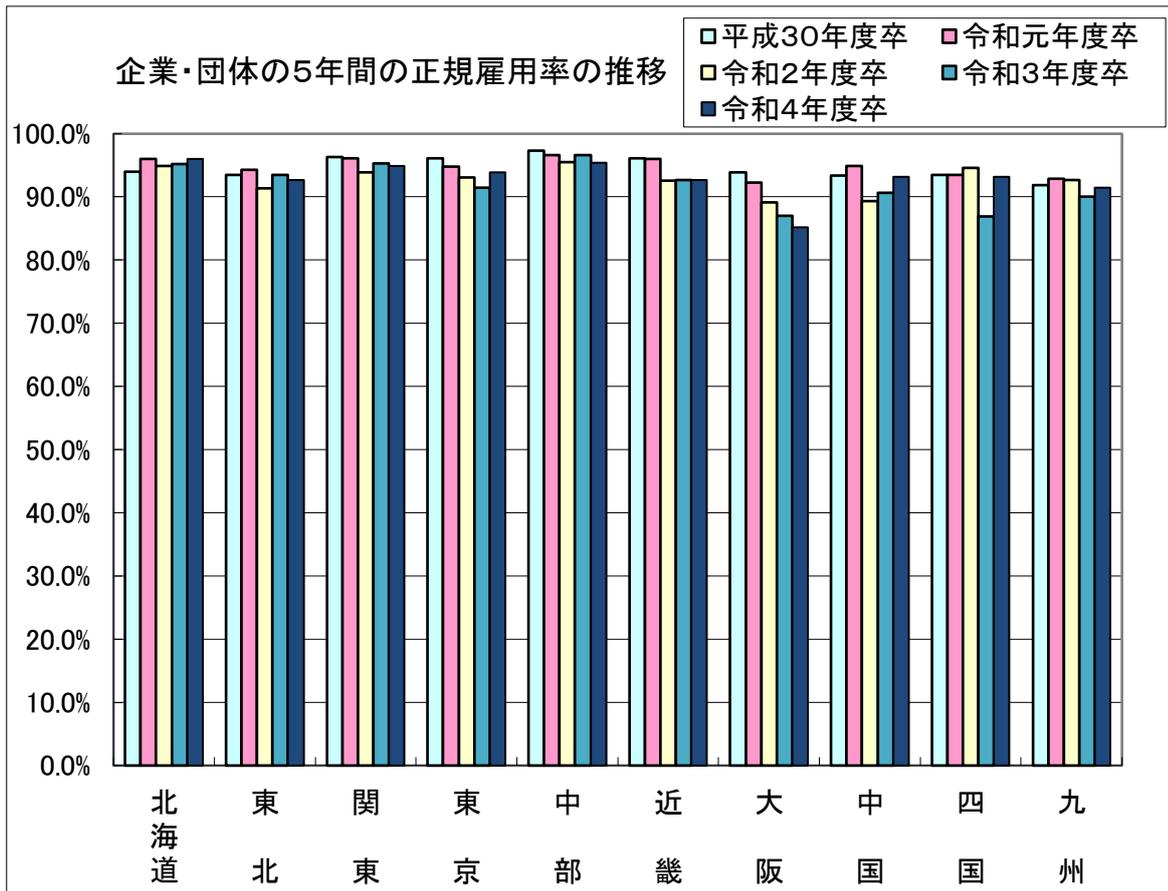


2 地域別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全 国	2,931	905	478	904	2,696	7,914
北海道	259	11	16	25	97	408
東 北	60	38	27	38	141	304
関 東	396	122	78	135	453	1,184
東 京	594	198	107	181	387	1,467
中 部	200	146	59	94	330	829
近 畿	367	175	50	133	263	988
大 阪	619	25	59	124	462	1,289
中四国	87	58	23	50	230	448
九 州	349	132	59	124	333	997

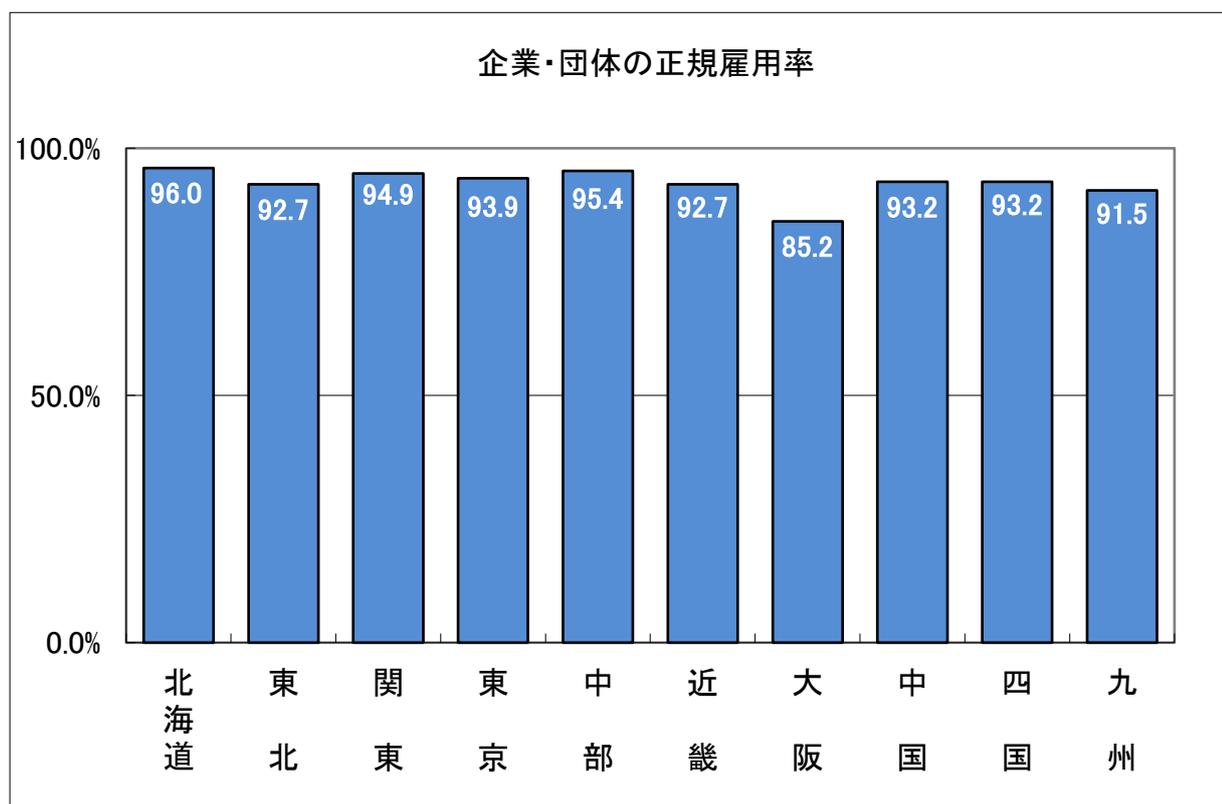
企業・団体の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道	94.0%	96.0%	94.9%	95.2%	96.0%
東北	93.5%	94.3%	91.4%	93.5%	92.7%
関東	96.3%	96.1%	93.9%	95.3%	94.9%
東京	96.1%	94.8%	93.1%	91.5%	93.9%
中部	97.3%	96.6%	95.5%	96.6%	95.4%
近畿	96.1%	96.0%	92.6%	92.7%	92.7%
大阪	93.9%	92.3%	89.1%	87.0%	85.2%
中国	93.4%	94.9%	89.3%	90.7%	93.2%
四国	93.5%	93.5%	94.6%	86.9%	93.2%
九州	91.9%	92.9%	92.7%	90.0%	91.5%
全国	95.2%	95.0%	93.1%	92.8%	93.1%



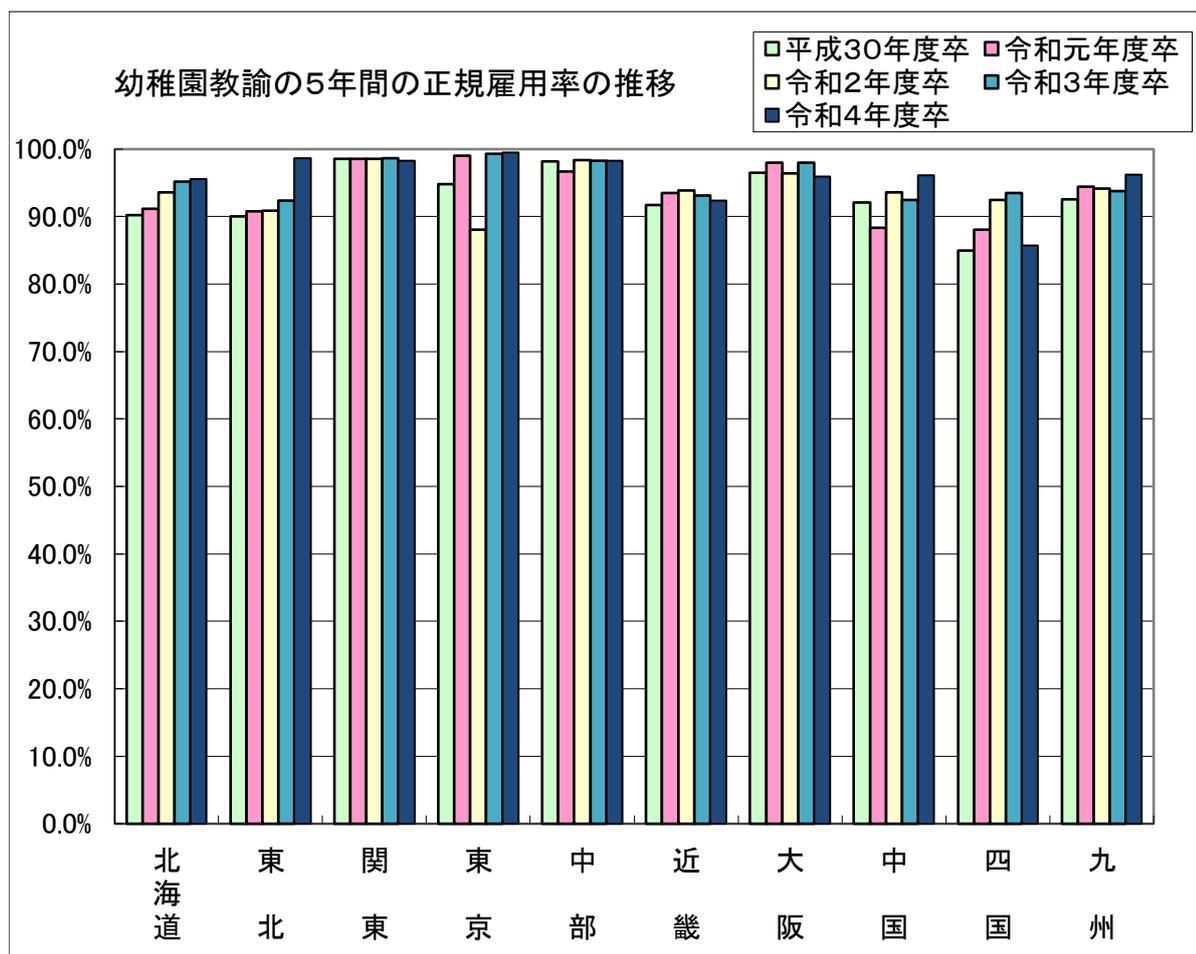
令和4年度企業・団体における地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	11,503	10,709	794	93.1%
北海道	544	522	22	96.0%
東 北	671	622	49	92.7%
関 東	2,102	1,995	107	94.9%
東 京	1,290	1,211	79	93.9%
中 部	2,199	2,098	101	95.4%
近 畿	1,304	1,209	95	92.7%
大 阪	1,075	916	159	85.2%
中 国	546	509	37	93.2%
四 国	325	303	22	93.2%
九 州	1,447	1,324	123	91.5%



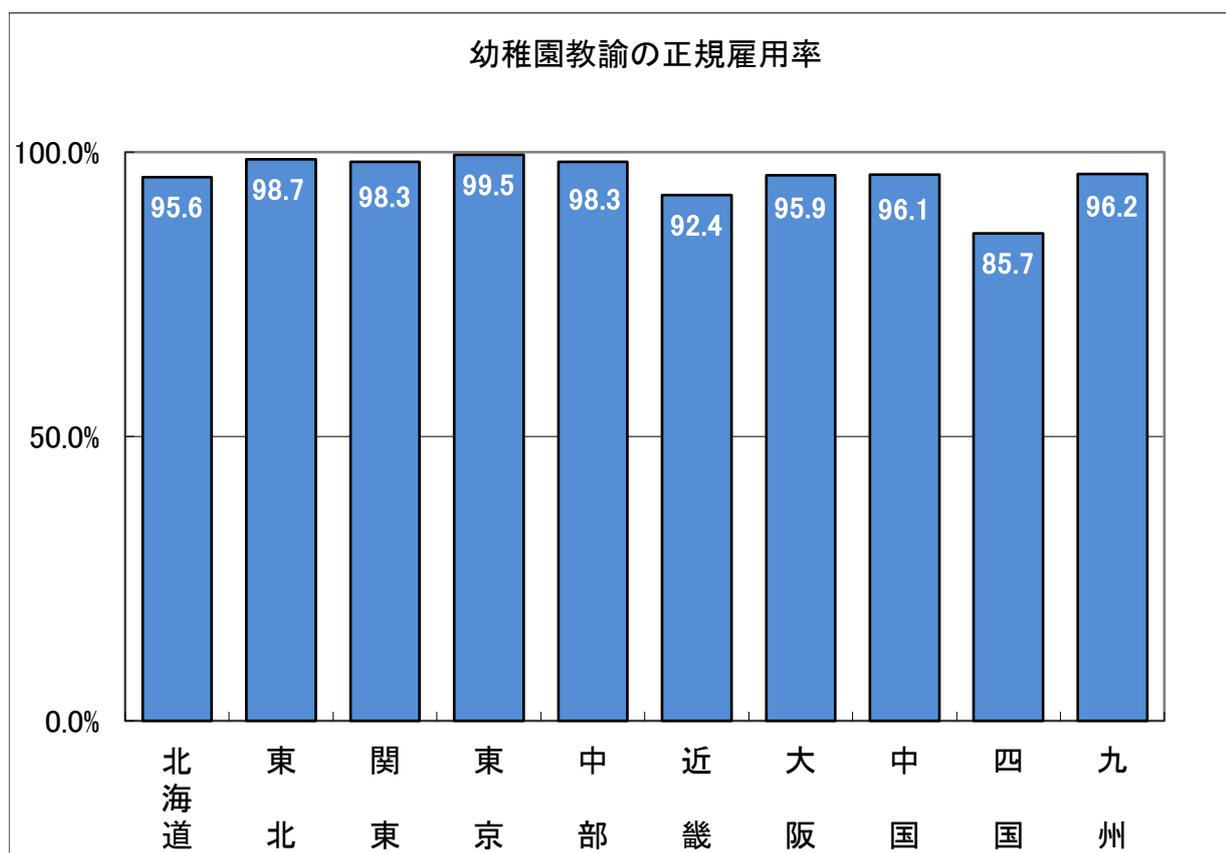
幼稚園教諭の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道	90.2%	91.2%	93.6%	95.2%	95.6%
東北	90.0%	90.8%	90.9%	92.4%	98.7%
関東	98.6%	98.6%	98.6%	98.7%	98.3%
東京	94.8%	99.0%	88.1%	99.3%	99.5%
中部	98.2%	96.7%	98.4%	98.3%	98.3%
近畿	91.7%	93.5%	93.9%	93.1%	92.4%
大阪	96.5%	98.0%	96.4%	98.0%	95.9%
中国	92.1%	88.3%	93.6%	92.5%	96.1%
四国	85.0%	88.1%	92.5%	93.5%	85.7%
九州	92.6%	94.4%	94.2%	93.8%	96.2%
全国	94.8%	95.3%	95.3%	96.1%	96.9%



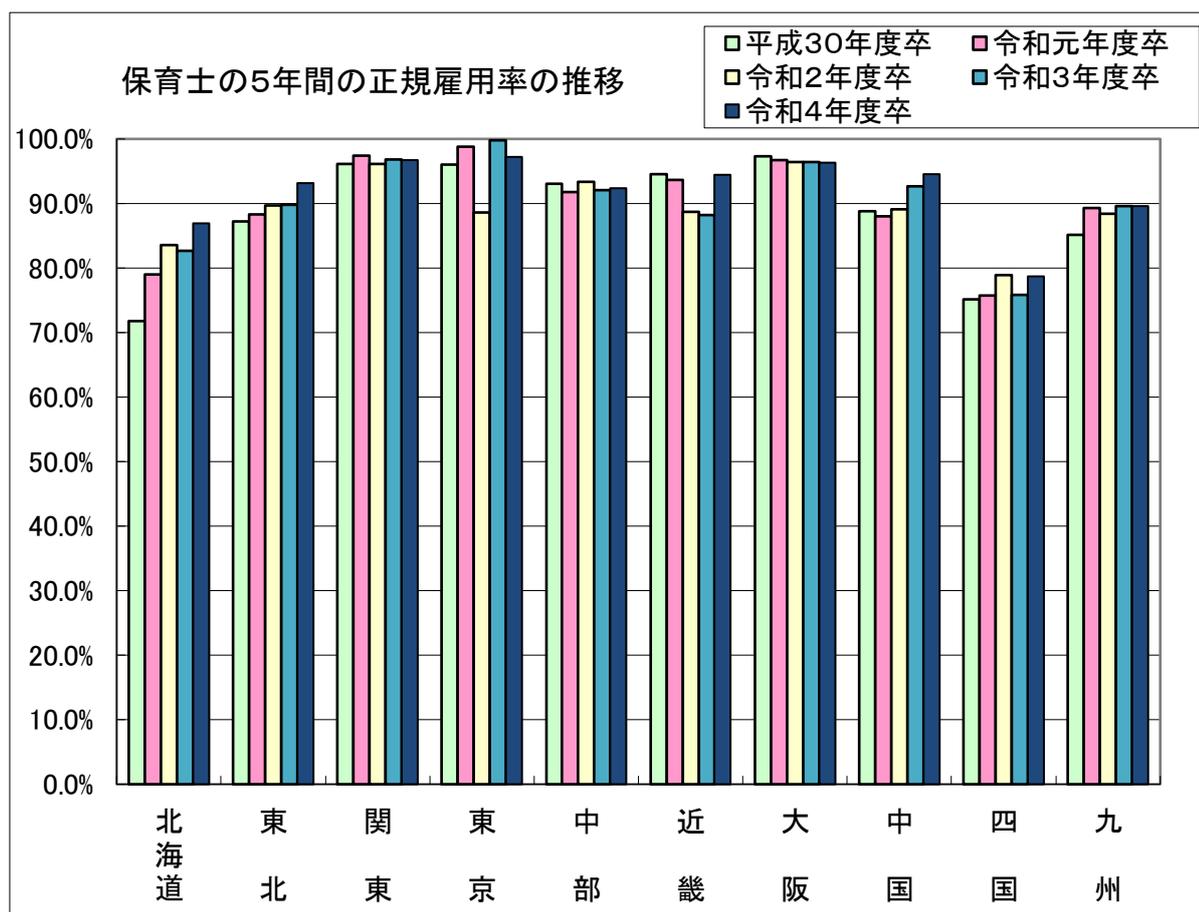
令和4年度幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	2,174	2,106	68	96.9%
北海道	90	86	4	95.6%
東 北	153	151	2	98.7%
関 東	578	568	10	98.3%
東 京	183	182	1	99.5%
中 部	343	337	6	98.3%
近 畿	171	158	13	92.4%
大 阪	146	140	6	95.9%
中 国	102	98	4	96.1%
四 国	63	54	9	85.7%
九 州	345	332	13	96.2%



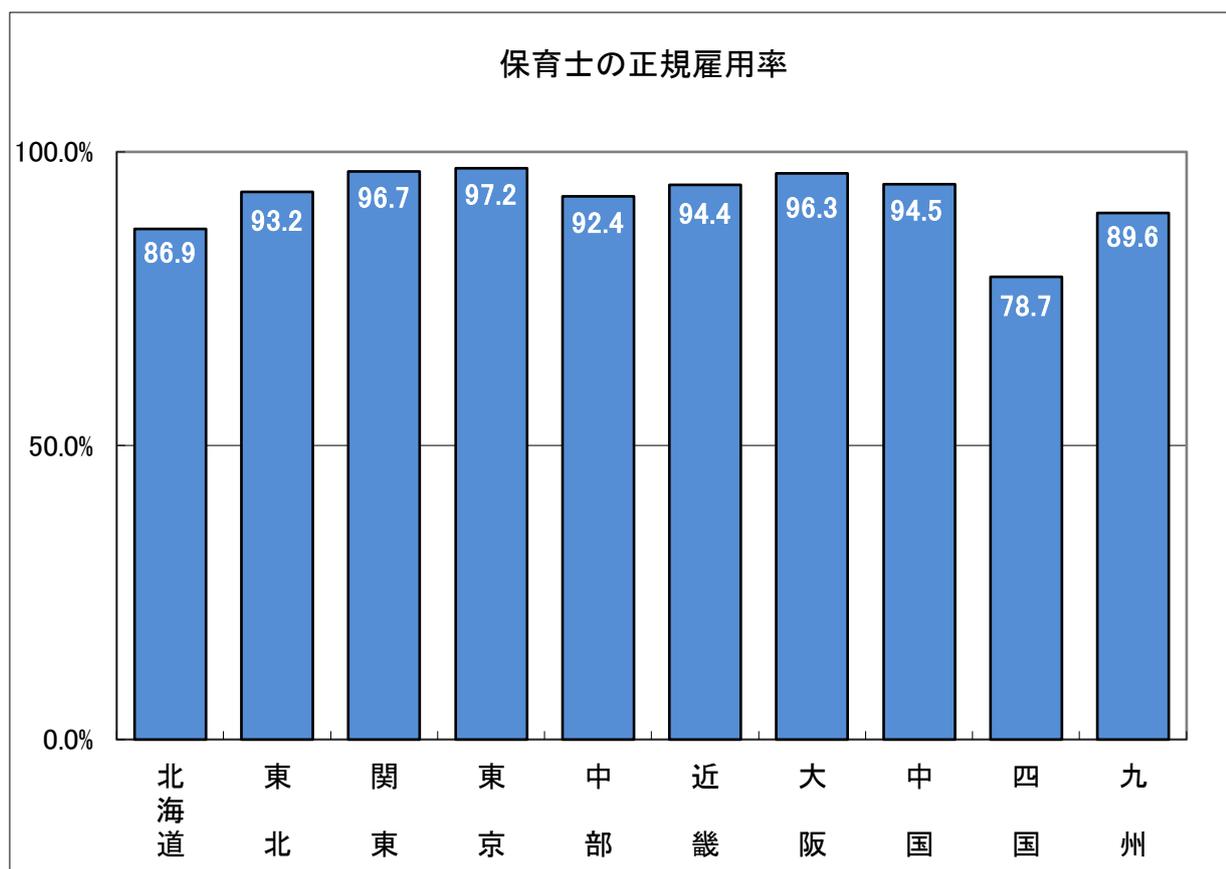
保育士の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道	71.8%	79.0%	83.6%	82.7%	86.9%
東北	87.2%	88.3%	89.7%	89.8%	93.2%
関東	96.1%	97.4%	96.1%	96.8%	96.7%
東京	96.0%	98.8%	88.6%	99.8%	97.2%
中部	93.1%	91.8%	93.4%	92.1%	92.4%
近畿	94.5%	93.7%	88.7%	88.2%	94.4%
大阪	97.3%	96.7%	96.4%	96.4%	96.3%
中国	88.8%	88.0%	89.1%	92.7%	94.5%
四国	75.1%	75.7%	78.9%	75.8%	78.7%
九州	85.1%	89.3%	88.4%	89.6%	89.6%
全国	90.9%	92.2%	91.3%	92.4%	93.3%



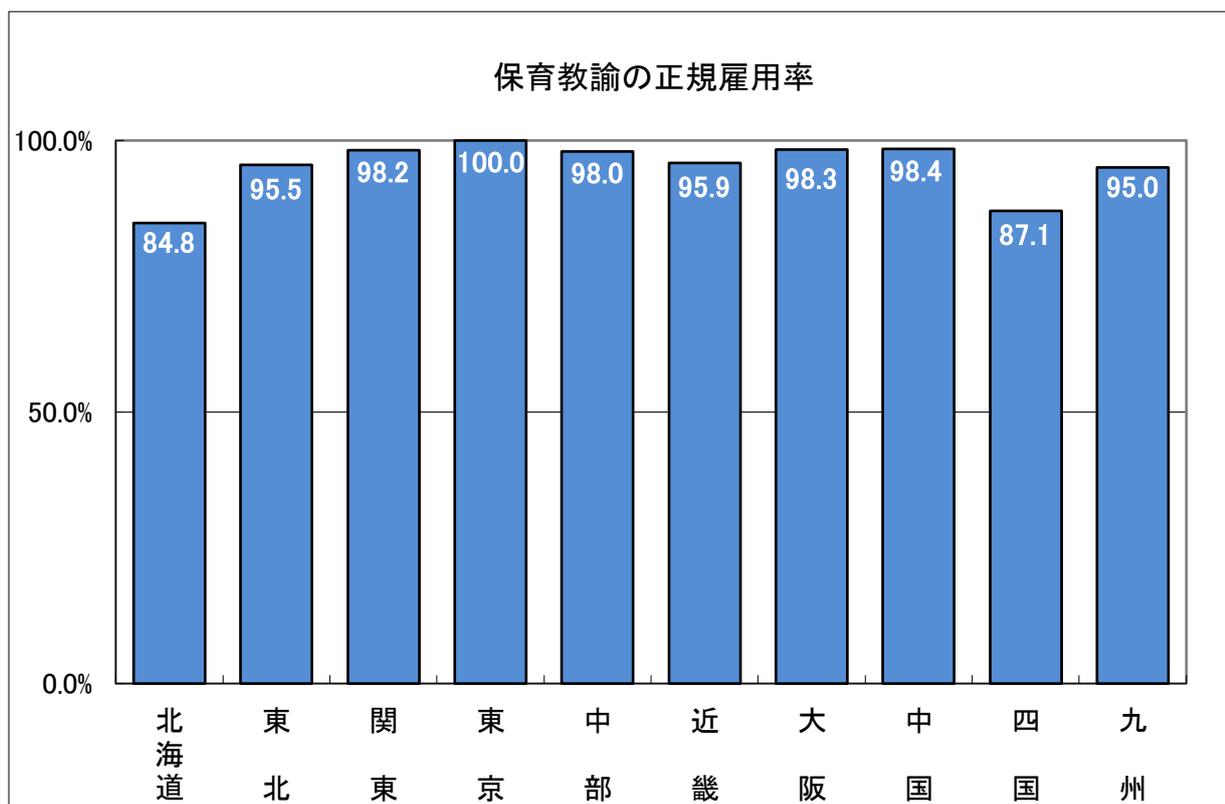
令和4年度保育士の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	7,338	6,846	492	93.3%
北海道	199	173	26	86.9%
東 北	617	575	42	93.2%
関 東	1,823	1,763	60	96.7%
東 京	433	421	12	97.2%
中 部	1,072	990	82	92.4%
近 畿	646	610	36	94.4%
大 阪	432	416	16	96.3%
中 国	581	549	32	94.5%
四 国	239	188	51	78.7%
九 州	1,296	1,161	135	89.6%



令和4年度保育教諭の地域別雇用形態の状況

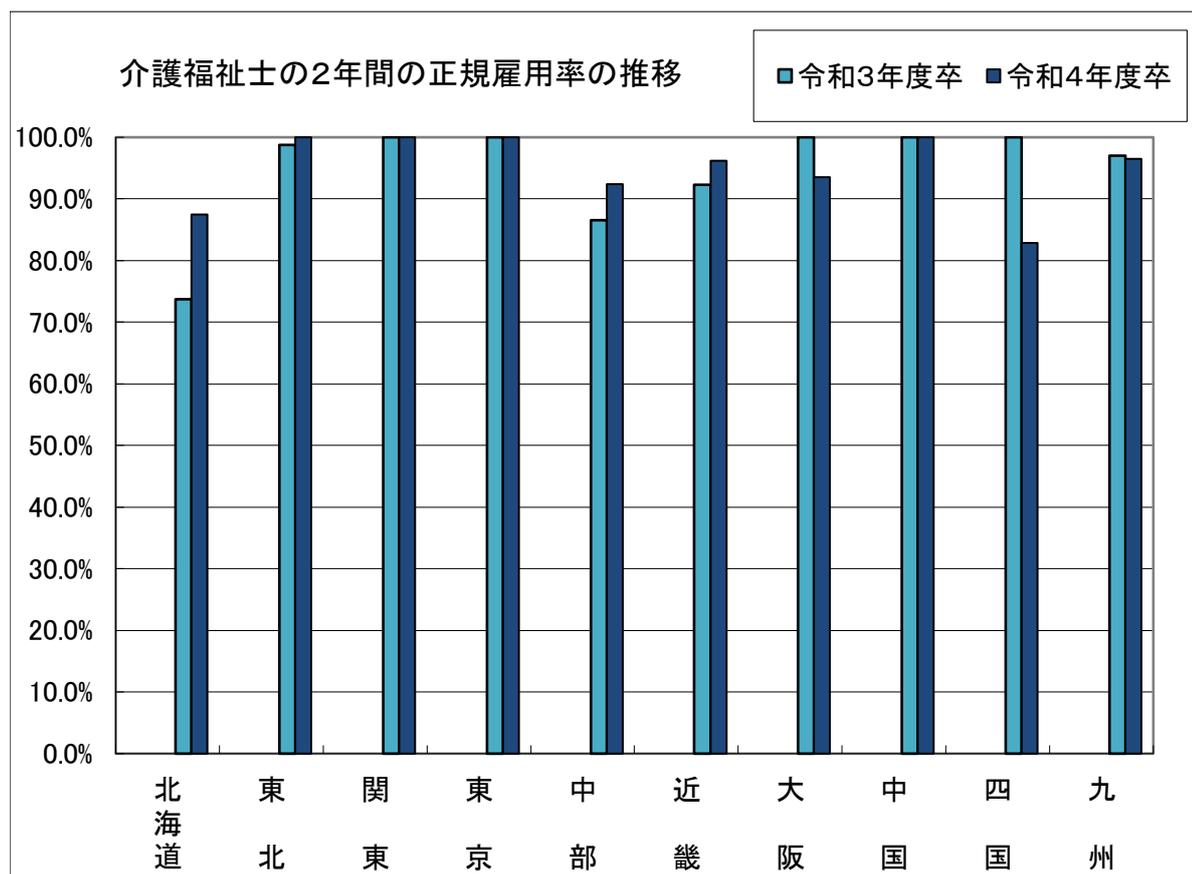
	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	3,458	3,329	129	96.3%
北海道	158	134	24	84.8%
東 北	332	317	15	95.5%
関 東	681	669	12	98.2%
東 京	38	38	0	100.0%
中 部	559	548	11	98.0%
近 畿	518	497	21	95.9%
大 阪	404	397	7	98.3%
中 国	186	183	3	98.4%
四 国	85	74	11	87.1%
九 州	497	472	25	95.0%



※保育教諭は「令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」まで〔幼稚園教諭〕に含めて集計していたため、「正規雇用率の推移」の経年比較は行わない。

介護福祉士の正規雇用率の推移

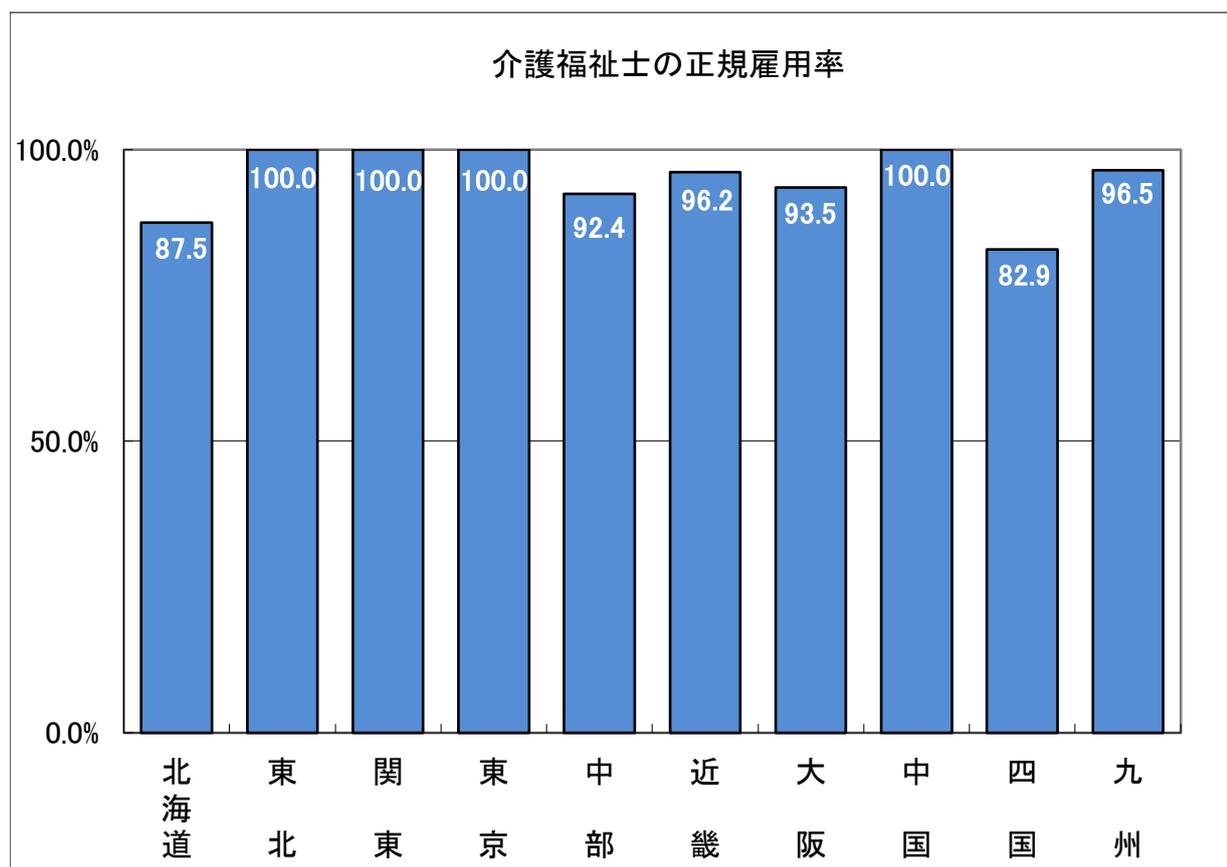
	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道				73.7%	87.5%
東北				98.8%	100.0%
関東				100.0%	100.0%
東京				100.0%	100.0%
中部				86.5%	92.4%
近畿				92.3%	96.2%
大阪				100.0%	93.5%
中国				100.0%	100.0%
四国				100.0%	82.9%
九州				97.0%	96.5%
全国	93.5%	97.8%	96.5%	93.8%	95.2%



※介護福祉士は「令和2年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」まで〔その他の専門職〕に含めて集計していたため、地域ごとの比較は令和3年度卒および4年度卒のみとなる。

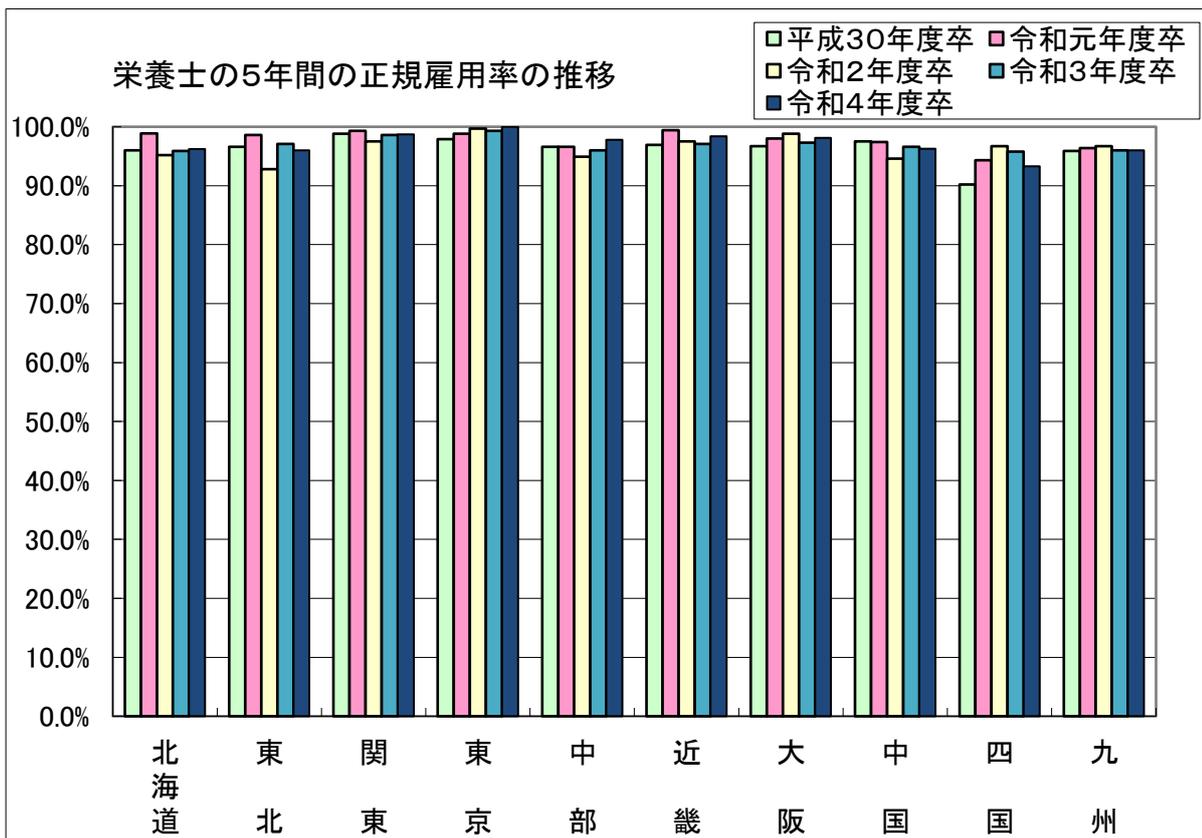
令和4年度介護福祉士の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	744	708	36	95.2%
北海道	16	14	2	87.5%
東 北	83	83	0	100.0%
関 東	78	78	0	100.0%
東 京	31	31	0	100.0%
中 部	184	170	14	92.4%
近 畿	52	50	2	96.2%
大 阪	92	86	6	93.5%
中 国	2	2	0	100.0%
四 国	35	29	6	82.9%
九 州	171	165	6	96.5%



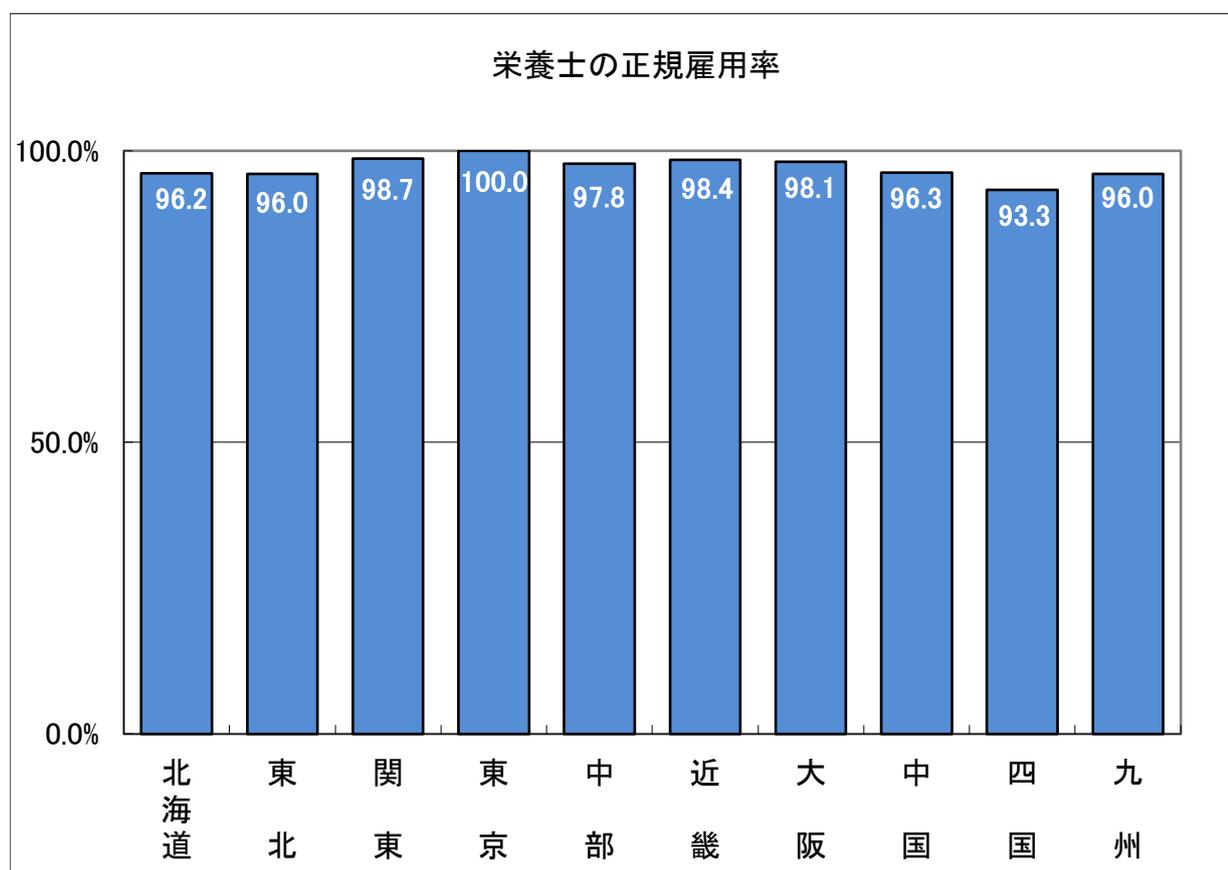
栄養士の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒	令和4年度卒
北海道	96.0%	98.9%	95.2%	95.9%	96.2%
東北	96.6%	98.6%	92.8%	97.1%	96.0%
関東	98.8%	99.3%	97.5%	98.6%	98.7%
東京	97.9%	98.8%	99.7%	99.3%	100.0%
中部	96.6%	96.6%	94.9%	96.0%	97.8%
近畿	96.9%	99.4%	97.5%	97.1%	98.4%
大阪	96.7%	98.0%	98.8%	97.3%	98.1%
中国	97.5%	97.4%	94.6%	96.6%	96.3%
四国	90.2%	94.3%	96.7%	95.8%	93.3%
九州	95.9%	96.4%	96.7%	96.0%	96.0%
全国	96.7%	97.7%	96.4%	97.1%	97.4%



令和4年度栄養士の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	2,273	2,213	60	97.4%
北海道	105	101	4	96.2%
東 北	252	242	10	96.0%
関 東	375	370	5	98.7%
東 京	243	243	0	100.0%
中 部	357	349	8	97.8%
近 畿	127	125	2	98.4%
大 阪	162	159	3	98.1%
中 国	161	155	6	96.3%
四 国	89	83	6	93.3%
九 州	402	386	16	96.0%



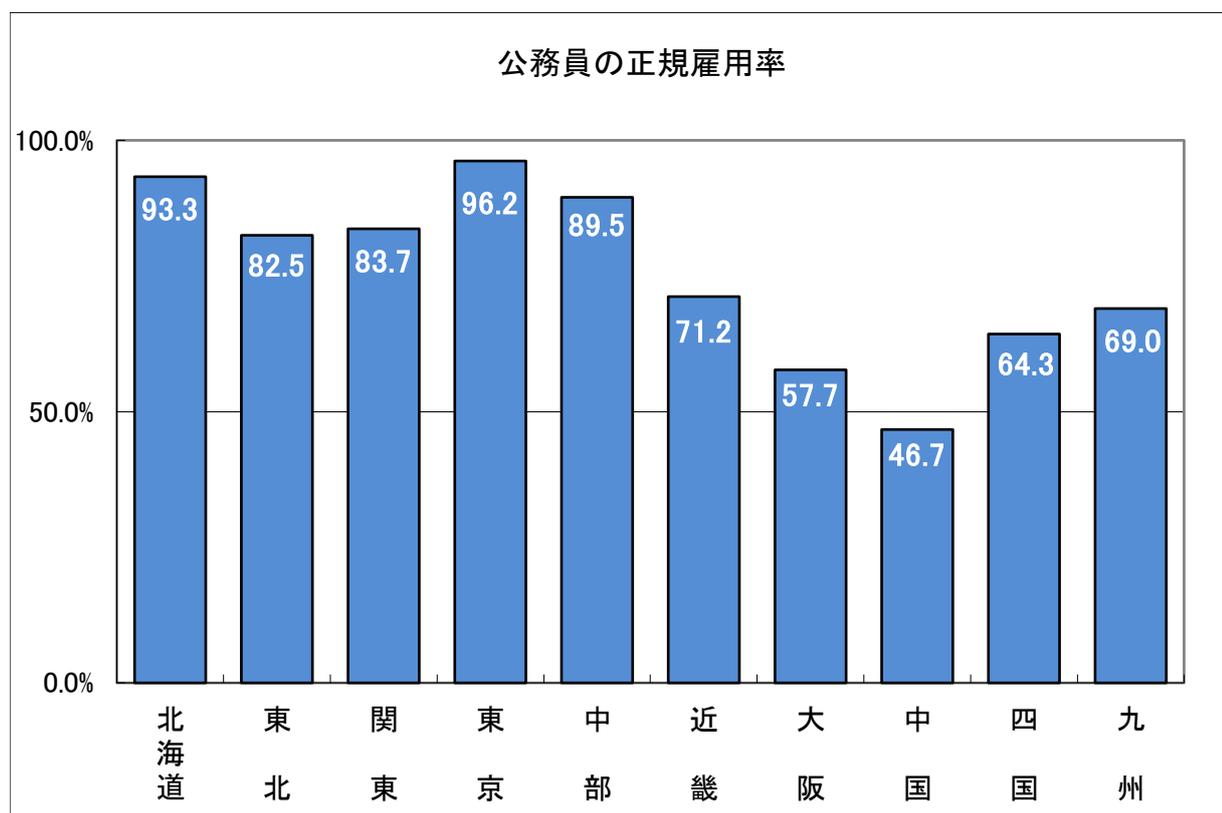
その他の（国家資格・免許を必要とする）専門職の雇用形態の状況

専 門 職 名	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
小 学 校 教 諭	134	55	79	41.0%
中 学 校 教 諭	40	19	21	47.5%
養 護 教 諭	61	5	56	8.2%
栄 養 教 諭	10	1	9	10.0%
特別支援学校教諭	4	0	4	0.0%
図 書 館 司 書	53	5	48	9.4%
看 護 師	890	887	3	99.7%
准 看 護 師	6	6	0	100.0%
臨 床 検 査 技 師	99	96	3	97.0%
理 学 療 法 士	164	164	0	100.0%
作 業 療 法 士	73	73	0	100.0%
柔 道 整 復 師	9	9	0	100.0%
視 能 訓 練 士	35	35	0	100.0%
歯 科 衛 生 士	713	712	1	99.9%
歯 科 技 工 士	16	16	0	100.0%
調 理 師	74	73	1	98.6%
製 菓 衛 生 師	67	67	0	100.0%
美 容 師	105	105	0	100.0%
自 動 車 整 備 士	462	462	0	100.0%
合 計	3,015	2,790	225	92.5%

令和4年度公務員の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
北海道	45	42	3	93.3%
東北	40	33	7	82.5%
関東	49	41	8	83.7%
東京	26	25	1	96.2%
中部	191	171	20	89.5%
近畿	52	37	15	71.2%
大阪	26	15	11	57.7%
中国	15	7	8	46.7%
四国	14	9	5	64.3%
九州	29	20	9	69.0%
計	487	400	87	82.1%

注)本公務員は、一般行政職、学校事務職、自衛官、消防士等に就いた者を指します。



令和4年度の就職・採用活動における総括について (具体的記述内容一覧)

〔北海道〕

- 3年連続就職、進学率100%達成した。本年度は担当者が2名から1名になるため効率重視の活動をしていきたいと思う。
- 就職決定の時期が、前年より1ヶ月程度早かった。保育科就職希望者は12月までに全員決定、食物栄養科の最終決定者が2月に決定。保育科においては、実習先への就職比率が例年に比べ10%程度高かった。
- 昨年から引き続き、ガイダンス等を対面とオンライン両方で行い、学科教員と協働し学生支援を行ったところ、就職率(内定率)100%を達成することが出来た。
- コロナの影響については採用活動自体に大きな影響はなかった。コロナ禍で普及したオンラインツールにより、WEB面接等が広く普及しており、WEB面接に対応出来る部屋が時期によっては混みあう場合があった。WEB面接の普及によりタイムパフォーマンスが向上しており、複数の企業を受験しやすい環境が整ったが、逆に傾向としては1社1社を大事に受験する学生が増えた印象がある。

〔東北〕

○・保育

変化：前年度より県内・市内の求人票が若干早く学校に届くようになった印象がある。

苦勞：①資格を取得しない学生の就職指導（就業意識が希薄で、個別面談を繰り返したが、就職しないまま卒業。）②漠然と一般企業というだけで具体的な職種についての方向性が定まらない学生指導。

成功：就職希望者は、全員内定を頂けたこと。

課題：今後、保育者資格を有しているという理由だけで、保育職に就いた学生がどれくらいいるのかなどの調査が必要。

・一般企業

成功：ハローワークとの連携を深めた点。また前年に引き続き、就活についてのゲスト講話を実施した点。

- 新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、県外へ就職する学生が増加した。
- 本学の令和4年度（以下「昨年度」という）の就職率は、100%であった。これは、就職対策委員会を通じてのクラス担任等教員間に通底する学生に対する就職支援マインド発揮の成果と承知しており、本学学生の就職活動を下支えする大きな力である。一方反省点としては、昨年度は、当センターの業務スケジュール管理上の問題から事業所訪問が未実施となり、目に見えての不都合はなかったものの、地域の採用先と本学との交流が深まらなかった。結果として、学校及び学生の様子を部外に伝えきれなかったことが挙げられる。
- おおむね良好な就職状況である。
- 保育士、幼稚園教諭、栄養士を目指して入学したが、途中で続かない学生が増加している。

○・栄養士：周りを見ながら就活の波に乗り、早く動く学生と、そうでない学生の二極化が顕著に出た年であった。長期高度人材育成コース入学者（大人）はこだわりが強く、働く条件が多いためか、なかなか就活が進まず苦労したが、ギリギリでなんとか全員就職した。コロナ禍で学内での選考試験を始めた企業は、今後も続けて実施する意向を示している。オンラインと対面を併用しながらの採用試験は企業、学生双方にメリットがあると捉えている。

・幼保：感染状況と実習の時期を考慮しながら、県外園への見学も実施できた。

たくさん見学しながら自分に合った園を探す学生がいる一方で、早く就活を終わらせたいのか、処遇待遇の条件等を確認せずに、安易に決めてしまう学生も少なくない。

未だ見学の際に、園長との面談を勧める保育園があり、学生には注意喚起をし、保育園側には『本学ではこういう保育園はダメ』と学生に伝えているので、考慮してほしい旨を伝えた。また、児童発達支援施設への就職希望者が増えた年であった。

○本学は自県内外を問わず出身地へ戻り、地元就職希望者が多い。そのため教育実習、保育実習、施設実習先を就職希望先に寄り添ったものにするよう工夫している。実習の達成度も高く就職満足度も高い。

○コロナも落ち着きつつあり、全体的には順調に行った。春から夏までは内定が取れず苦戦する学生も多かった。保育系では保育士・幼稚園教諭を諦める学生と、企業系では進学希望の学生が増えたことが変化であった。

○学生と連絡が取れない（電話の折り返しがなし、メールを読まない、学内 LMS を見ない）ため学生の状況把握が難しい。教員に協力をお願いして、学科の連絡ツールで状況を把握するケースも多い。人数の少ない学科は早期の面談で就職活動スタートを促し、人数が多い学科は繰り返しの活動状況アンケートを実施したり、個別にアプローチを粘り強く繰り返した。結果、就職希望者に対して全学科 100%就職率となった。

○コロナ禍が落ち着いた影響か、県外就職希望者が大幅に増加した。

○令和 4 年度の求人件数は全体でわずかに下回ったが、認定こども園と福祉施設関連は昨年度を上回った。令和 4 年 10 月に本学求人情報サイトを新規に導入し求人情報やインターンシップ情報の提供に努めた。雇用形態・処遇等に変化はないが学生の就労意欲は変わらず意欲旺盛であり、昨年に引き続き就職率 100%を達成した。

○早期化、長期化、二極化で一般企業の事務職が少なかった。

〔関東〕

○学科の教員と連携し、学生一人ひとりに寄り添った支援を行ったことで、例年どおりの就職率を達成することができた。

○コロナ禍で実習が延期になる園も多く、全体的に就職活動の出足が遅れた。

○企業研究がままならない状態で就職活動に入る学生が見受けられる。

就職意識の低下により 2 年次の夏以降に活動するケースも少なくない。

○学生が全員、WEB で就職情報を得られるようにした。

○アート・デザイン学科における就職者数が少ない状況となっている。

- 今年度は、外部からキャリアコンサルタントの講師の方と連携を取り、学生の就職活動のバックアップを更に強化している。
- コロナ禍での外出自粛の影響で、対面での説明会、イベント、実習やボランティア等が相次いで中止・延期され、オンライン上の情報だけでは、企業の雰囲気やうまくつかめず、就職先選別に苦労している学生も多くみられた。その説明会の中止や延期により、就職活動のスタートがうまく切れず、結果的に活動が長引き、学位記授与式付近までに内定が得られないケースも出た。また、コロナ禍で活動が制限された学生生活を送ってきたため、学生時代に頑張ったこと、いわゆる“ガクチカ不足”（学生時代に力を入れたこと）もみられ、個別対応に時間を要した。そんな中でも卒業生の大半が医療福祉系に就職を志望していたこともあり、就職率も例年同様 100%となることができた。
- コロナ禍において、学生との連絡が取りづらく、就職支援方法に苦慮した。
- 内定辞退者が例年に比べて多かった。入社前研修等で「考えていたものと違う」と感じたという理由が多いが、他社との比較を含め企業研究にじっくり取り組むことの大切さをしっかり指導する必要を再認識した。
- 学生の進路報告を集約するのに苦労している。臨機応変に進路報告書の提出がしてもらえない。全体として就職に対する意識が薄らいでいるように感じる。
- ・求人数求人件数とも多数あり学生は希望通り入職できた。
 - ・昨年より試験の難易度を下げた（面接とピアノが必須で作文等あったが、書類選考と面接のみになった等）求人が目立った。
- 今年は、前年、前々年の同時期あるいはコロナ前の同時期よりも内定率が上回るほど大変好調だった。ゴールデンウィーク前に就職先が決定した学生が多く見られた。コロナ禍で一般的になった WEB 説明会や WEB 面接もそのまま多くの企業で行われた。
- コロナ禍により、児童福祉（保育）や教育現場でのインターンやボランティア等を行うことが難しい状況があった。そのため、働く場についてのイメージが沸かず、早い段階で進路が決められない学生が見受けられた。しかし、最終的には公務員を含め本人が希望する職種に大多数の学生が就職することができた。
- 内定を得た学生が研修中に辞退するミス・マッチが生じ 6 月中旬に新たな採用が決まることがあった。就職のミス・マッチをいかに防ぐかが課題。
- 就職状況はほぼ例年通り。実習を受け入れているのに、就職に繋がらないという意見あり。対応が難しい。
- 就活開始が遅れ、年を越してから内定した者が増加した。業者の斡旋により就活した者が数名おり、対応に苦慮しながらも見守りや助言をした。
- 去年に引き続き就職決定率が 100%であったことが良かった点である。
- 求人の業種が増えた。
- コロナ禍での実習時期変更に伴い、就職活動時期にバラツキがみられ、採用決定時期が、例年に比べ後ろ倒しになった。また、「就職を希望しない」学生が増加傾向にある。
- オンライン（説明会・採用面接）が増え、そのための学生支援が変化してきている。
- 内定辞退があったことが、今後の就職指導の課題です。

- ・対面での活動も増えたが、オンラインでの開催が多くなってきた。
 - ・まだまだ採用枠は多くあるが、今後どのような動きになっていくか心配な面はある。
 - ・実習がかなりのポイントになっていると感じる。やはり自ら見学や実習等で体験することが大切と感じる。
- ・企業系：①前年度に引き続き説明会、一次面接をWEBで行う企業が主流となっているが対面も微増。②公務員、進学（大学編入、専門学校）希望者が増えた。
 - ・幼保系：①幼稚園への就職者は微減に留まったが、実習園への就職率が54%（前年42%）と高まった。②私立幼稚園就職者は前年比7%増。うち株式会社率は17%増えた。
- 四年制大学への編入生が増えた。
- 22卒に比べ23卒は求人数が増加。ホテル・飲食などサービス業の内定者が増加した。就職活動を続けた学生は内定を獲得したが、1~2社受験し不合格となり活動すること自体を卒業前に諦めてしまう学生が複数おり、支援することが難しいケースがあった。また内定を得ても就職しない（納得できる就職先が決まるまで卒業後就職活動を続ける）ことを選択した学生も複数いた。本学については就職希望者が減少した（四年制大学への編入学希望の割合が増加した）。
- 変化したこととすると、接客や販売系の求人が増えてきている一方、希望者は、減ってきていると感じる。理由としては、コロナ禍での仕事が激減したためにその不安感が残っていると推測される。
- コロナ禍の影響から近年採用を控えていた企業での募集が回復をした半面、学生の学習意欲や芸術活動への意欲が深まり、就業者の増員には繋がらなかった。
- 就活全体指導をコロナ禍3年目ということで前年同様オンライン（オンデマンド）中心にしたが前年より理解度が低くて苦勞した。令和5年度はほぼコロナ禍前と同様に対面による指導に戻している。
- 保育科の就職活動において、人材紹介会社を利用する学生が増えてはいたが、自分の力で就職活動をする学生が例年より多いように感じ、トラブルが起きずに済んだ。
- コロナが緩和されてフェアへの参加や園見学等就職活動がスムーズになった。
- 整備職の求人数は前年比同等。1年次前期から「キャリア形成」科目を開講。様々な観点から就職活動を支援できるように取り組んでいる。
- 就職活動に積極的に取り組む学生とそうではない学生の二極化が進んでいる。あまり動かない学生は連絡が取りづらいことも多く、早めに支援を行っていくにはどのように支援を行えば良いのかは検討が必要と考える。
- コロナ禍の影響も少なく、例年通りの就職活動を経て内定を得ていた。

[東京]

- オンラインでの説明会・選考が増えたことにより、学生の意欲・理解度の差が開くとともに、内定先企業に対する定着率も下がっているように感じられる。
- 飲食業、アパレル、ホテル産業の求人が回復してきた。
- 前年度と比べ、その他の割合を減らし、就職率、進学率の増加に注力した。

- 就職を希望しない、就職希望だが活動ができない学生がおり、働くことへの不安を抱える学生への支援に課題が残った。数年前から人材紹介会社を利用する学生が現れるようになったが、令和4年度は利用者が少なかった。
- 例年通りのキャリア支援を実施し、内定率100%を達成。
- 大手企業を中心とする一般企業の大卒志向は、避けられない状況。特定の資格職以外を希望する学生支援はますます厳しくなっている。
- 大きな変化はなかった。進路決定は順調だった。
- 就活年の1年間だけでは社会に出るためのキャリア支援が十分ではないため、1年生からのキャリア教育の見直しをして、支援の充実をはかった。
- 本学では、キャリア教育の中で、就職説明会や模擬面接を学内で実施しており、効果をあげている。しかし、就職活動の二極化（活動が早くできる学生となかなか動き出せない学生）が進み、指導が難しい状況である。
- ・保育：コロナの影響で実習期間が変更となった為、公立の採用試験と重複してしまい、スケジュール調整に苦慮する学生が一部いた。学内の講座の参加数については科の教員やクラス委員に周知を依頼することで若干参加者数が増えた。
・栄養：授業・実習と就職活動の両立が大変との声が多くあった。
- 個別面談を実施し、学生ひとりひとりにあった支援を行うことで、キャリア支援課の利用率があがっている傾向がみられた。また、キャリアカウンセリングでは、オンラインでも実施をした。就職対策講座や学内企業説明会等は継続して実施し、インターンシップは授業以外でも学生への説明を行った。
- 内定取り消しが1件あった。
- 音楽専攻は社会人入学の学生が増えたので、卒業後の就職率や進学率が下がった。
- 食物栄養学科は、就職希望者決定率が2年連続100%を達成。
- コロナ禍で就職先がオンラインで行うところや、回復見込み給与、労働条件の改善が多く見受けられた、学生の選択幅が増えたが、都心のみで地方は条件の良いところが少ない状況である。
- 令和4年度は引き続き理系学生の売り手市場が続いているため、企業が大学訪問などで短期大学部の存在を知ると、短大の求人枠を追加するケースが多かった。ただ、学生は第一希望が編入を目指す学生が多いため、折角の求人が活かしきれいなと感じた。
また、企業もある一定のレベルを求めるため、内定のハードルも四大程の内容で考える企業が多く、希望した全員が内定をとることが難しいと実感した。
- 聴覚障害の学生がハローワーク等の支援を利用することで内定を得ることができた。

[中部]

- コロナ禍が一段落し、チャレンジできる企業が増えた一方、一部の学生は省力化していた印象がある。
- 一般企業の採用活動の時期が早まった。
- 就職活動の早期化により、学生の受験態勢が整わない状況がある。

- 就職活動が早期化かつ長期化している。なかなか自分の適性を見出せず就活の波に乗れないように見える学生が増えているように思う。短期大学の場合「早期化」への対応が難しくなっている。
- 学内ガイダンスを7月頃より学科ごとに行ったことで、学生の早期活動を促すことができた。また、学科教員との連携を図るため、スプレッドシート上で学生の就職状況を随時共有し、学科と企画推進部との2体制でバックアップを図ることができた。
- 求人、選考方法ともにコロナ禍以前に戻った感がある。特に専門職は売り手市場が続いている。
- 内定時期が早期化した。
- 例年本学は栄養士の資格を活かした就職先が9割以上を占めていたが、令和4年度は一般職希望の学生が増えた(人材不足もあり売り手市場の要因もおおいにあると思われる)。
- 自分から動き出せる学生とそうでない学生との二極化が進んでいる。短大から電話や連絡に応じてくれず、求人情報などを紹介したくてもそれができない。
- 全国的に自動車整備士が不足しているため求人は好調だが、一方で企業が求める人材の変化があり(主にコミュニケーション能力重視)面接で不合格となるケースが複数見られた。
- 保育職を希望する学生は、幼稚園教諭よりも保育士を希望する者が増加した。また、保育について学んだが、一般企業へ就職する者が一定数あり、支援が一層幅広くなってきた。
- 留学生が多く、ビザ切り替えなどで苦労した。
- コロナ禍の影響も落ち着き、「売り手市場」が復活した反面、人手が不足している主な職種が営業職ということもあり、本学学生の多くが希望する事務職ではないという点でマッチングに困難があると感じている。職種や勤務条件で絞り込み過ぎないように、幅広い視野を持てるよう指導できるかが課題と捉えている。
- ・一般企業：コロナ禍で活用されたWEB方式がスタンダード化したことに加え、対面による試験も復活したことから、WEB・対面両方の支援を行った。また、1年次よりインターシップに参加して積極的に就活に取り組んでいる学生と、2年生になっても殆ど活動できていない学生とで二極化し、後者に対してどうアプローチしていくかが次年度の課題となった。
- ・保育：WEB活用が進み、県外施設へ目を向ける学生が増加した。園・施設は求人難ということもあり、実習以外の体験イベントやアルバイト紹介が増加した。株式会社立の施設からは、イベントや試験などに交通費支給を行うなど、一般企業並みの対応を行うところも出てきている。
- 採用試験の日程が決まっている中で、コロナウイルスの陽性者となり選考を辞退せざるを得ない状況となり気の毒であった。
- コロナ禍も収束の兆しが見られ、求人が回復傾向にあった。オンラインによる説明会や面接が増加した。
- 福利厚生(休日)や勤務地(地元志向)を重視する傾向にある。
- 早期に活動ができるようガイダンス等で指導した。

- 一般企業においてはコロナが落ち着く傾向があったため、求人が一昨年度より増加した。コロナが落ち着く傾向にあったが、新卒採用における WEB の活用は継続され、学内に設置している WEB 面接ルームの利用者が増える傾向にあった。1 年生のキャリアデザインの授業においてワークを取り入れた内容で行うことで、意識を高めることができたことが成功事例として挙げられる。
- 2022 年度は 7 月頃から学生の進路調査を開始し、就職活動に悩みを抱えている学生や進路に不安をもつ学生がいれば個々に必要なサポートに努めた。これが功を奏し、就職率（就職者/就職希望者）は 95.7%という結果となった。これは前年度比 4.5%増、直近 10 年の就職率と比較しても堅調な数字となっている。また、2022 年度卒業者のうち 35%が四年制大学への編入学を遂げており、編入学が本学短期大学部生の進路のひとつとして定着している。
- ・変化したこと、苦労したこと：美容関係に興味を持つ学生の多くが関連学校に行ってしまう、就職に至らなかった。
 - ・成功した取り組み：早期に動き出す学生は集団指導で内定獲得へ導けた。個別支援が必要な学生には教員と情報共有し、学生・教員・担当職員の 3 者が伴走した。その結果学生の満足いく進路となった。
- 令和 4 年度は 1 年生の前期に全員個人面談を実施することで、夏のインターンシップ参加者が増加。12 月に業界研究セミナー、3 月に学内ゼミナーを実施し、地元企業との連携を深めることで、就職活動の早期化に対応し内定率の上昇につなげることが出来た。
- 個人面談の機会を増やし、各自の状況に合わせた支援をより強化した。
- コロナの影響が緩和されたことで、対面・オンラインなど多様な採用活動が行われ、その時の情勢によって方法が左右されることがあった。採用については複数合格が増え、よりしっかりと内定先を判断する必要がある。
- 就職活動の開始時期が年々遅くなっている。就職活動への興味を持たせ方に苦慮している。
- 就職活動の前にコロナの影響で保育所の実習に行けなかったこともあってか、幼稚園とこども園への就職者数が例年より増えた。

[近畿]

- ここ数年比較で、9 月頃までの内定率は高い水準で推移していたが、1 月以降の内定者数は伸びずに最終的には例年と変わらない就職率に収まった。一部の学科の就活スタートダッシュは成功した。
- 求人数は回復傾向にあったが、高校時代をコロナ禍で過ごしたことで学生自身に影響が出ていると感じた。
- ・地元の保育関係の求人に変化はなかったが、一部の地区で採用を見込んでいた園の求人枠が前年度に比べて減ったように感じた。
 - ・就職への目的意識が低い学生に対し、意識を高める指導の難しさを感じた。
- 求人数が回復傾向にあった分、就活生にとっては追い風となった。
- 就職希望でありながら就活から逃避する学生が多く毎年苦労する。

- 一般企業の求人においては、接客・販売などの職種について、回復の兆しが見えてきた。また、学生の就職活動状況については、早期に内定を得る学生と、自己分析が進まず、なかなか動けない学生との二極化が顕著に現れた。就職試験では、オンライン化が進み、交通費や時間面でメリットが感じられ、この点については、アフターコロナ・ウィズコロナの状況下でも元に戻ることは考えにくいだろう。
- 幼稚園、保育園、こども園、施設などの専門職への就職活動においては、近畿圏内から多くの求人をいただき、例年通り内定を得ることができた。これら専門職への選考についても、一般企業と同様に早期化が進んでおり、早い時期から求人をいただいている状況である。
- 就職希望者に対する就職率、進学・作家活動等のフリーランスを含めた進路決定率は、昨年比で幾分上昇した。ただ短大生がデザイナー等のクリエイティブ職を志望する場合、四年制の大学生と比べると作品点数が少ないことやクオリティを高める時間が少ない等の制約があり就活で提出する作品集（ポートフォリオ）作りに苦労している。またカリキュラムが過密であり、アルバイト、部活動、ボランティア等の課外活動に割ける時間が少ないことから「ガクチカ」となる経験が少ない等、就職活動の困難を生じさせている事象があり、このあたりのフォローに苦慮している。
- 令和3年度の私立短期大学教育系の就職率（全国平均94.2%）を上回ることを目標としたが、昨年実績（87.1%）は上回ったものの（88.1%）、目標は達成できなかった。この要因は進路不詳のまま卒業した学生への指導が不十分であったことに尽きる。本年度はこの点を踏まえ、改善していきたい。
- 国家試験合格者4名の就職が5月1日現在でも未決定のため、現在も支援を行っている。
- 令和4年2～3月にまん延防止の影響で就職活動の取り組みが遅く、就職活動の支援が長引くことになった。しかし、企業の採用意欲が強く、最終的な内定率は高いものになった。
- 短大に届いた求人から応募するのではなく、WEBや実習園、就職フェアで求人票をいただき、就職活動をする学生が多く見られた。
- コロナ禍で学生生活を過ごした者たちのため自己PRのエピソードの掘り起こしに苦戦している者が多かった。また、周りからの情報が少なくなったからか企業の採用が早期化しているのに反して学生の就職活動の動きがコロナ前に比べ鈍化した。個々に相談に乗り過去を深掘りし、学生の希望に沿った情報伝達をすることに努めた。
- 就職に対して消極的な考えの学生が増えてきた。
- 「大・短応募可」求人では苦戦。企業の選考基準に達することが難しいため、学校に届く短大専用求人での応募を優先した。
- リモート慣れによる就職活動行動の消極化、実態のつかみにくさに苦労があった。
- 見学受入を再開する施設が増えたことにより、実習先以外の施設とも比較して就職先を決めることができた。

〔大阪〕

- 続くコロナ禍のため、早めの就活を指導していたが、就職活動の取り掛かりが例年より少し遅かったように感じた。
- 就職活動に対しての始動が遅くなってしまった。またコロナ禍で対面で得る情報量も乏しく、狭い視野で就活と向き合っていたように感じた。その中でもキャリア支援センターでは対面での相談を積極的に行い、また履歴書の添削や面接練習など学生に合わせたサポートを心掛け、結果例年とほぼ変わらない就職決定率となった。
- 求人数が回復傾向にあった。
- 昨年度の卒業生においても、学生の就職意識が低いように思う。
- 就職活動の動き出しが遅く、キャリアサポートセンターの面談利用のない学生も多かったため、活動状況の把握に苦労した。
- 短大卒業時に一般企業に就職希望する学生が少なくなっている。社会に出る前に、留学ややりたいことを優先する傾向にある。
- コロナ禍で学生生活を送ったためか、資格を取得し保育士として働くことに自信がない学生が多くみられた。実習園の先生方のご協力や卒業生のアドバイスなどを取り入れながら就職活動のサポートを行った。
- 1年次の就職研修について、8月から4月にシフトしたことにより、全体的に活動時期が早まった。また、個別面談を強化した。
- 雇用の再開に伴い、就職希望者及び就職者がコロナ前の状況に戻る傾向があった。
- ・コロナの影響による求人数減は未だ化粧品会社などの美容部員職などに影響しており、採用を控える企業が多く苦戦した。
 - ・オンラインを活用した就活も板につきつつあり、学生にとって合理的かつ経済的なツールは今後も持続していってほしい。
 - ・使用期間や契約期間のありかたを明確化してほしい。ごくまれに、その期間であれば採用取り消しが当たり前に行える期間に近いとお考えの事業所がある。
- WEBでの採用活動が定着し、学生にとっても企業との接点を持ちやすくなったように感じた。WEBでのやりとりに慣れていない学生も多かったため、メールでのやりとりやマナーも含めた指導を丁寧に行った。就職活動への意識を早期から高めるよう本年度は特に授業やガイダンスを活用し積極的に情報提供の機会を増やすよう取り組んだ。昨年度と比較し、全ての学科の実就職内定率が向上、コロナ禍での落ち込みから回復の傾向が見られた。
- 学科内における授業でサポートを強化していることにより、早期内定に繋がった。専門職就職フェアが多くなり、学生の情報収集の機会が増えた。

〔中国〕

- 大半が前期中に内々定を勝ち取るが、就活よりもまず卒業のための単位取得が最優先の学生が数人いる。これらの学生は就活から取り残され、卒業間近まで動かず、就職支援が難しい。
- 就業意識の醸成（コロナ禍での指導）期間の確保に苦労した。
- 専門職での就職率が例年より低かった。

- 変化したこと：相変わらずの保育士不足であり、特に大きな変化はない。
苦勞したこと：やむを得ない内定辞退など難しい事案は毎年多々あるが、学生ひとりひとりの相談に応じるのが職務と考えているので、特に「苦勞」とは感じなかった。
- 成功したこと：「専門職か一般職か」等に関しては「専門職に就きたくありません」と言ってくる学生も増えてきている。どの園を受験したいか等に関しても、最初は学生の自由意志に任せ、「よい園はありませんか？」など頼ってきたら具体的な園を推薦するようにしている。学生の揺れ動く心理に粘り強く寄り添う必要があると感じる。結果的には90%以上の専門就職率となった。
- 年々就職が早まっていると感じており、それに合わせて、就職支援講座の時期も早めている。本格的な実習を経験する前に受験となり、自分に合った病院選びや希望部署などを決めるのが難しいと感じている学生が多い。就職支援担当者と担任が中心となり、学生の希望や適性を考慮したうえで個別相談を行いサポートした。
- オンラインによる就職試験がより増えたような印象を受けた。
- オンライン説明会や面接が増えた。
- 令和4年度も就職状況は好調で令和5年1月末にはほぼ全員の学生の就職先が決定した。
- 保育者を求める事業所は多数あり、求人状況の安定が継続した。また、産休や育休などの取得も多く聞かれるようになり、継続して勤務している人も多い。売り手市場で採用が積極的な一方で、近年の学生は保育者として勤務する意識が消極的になっている。難しいことや大変そうなことは避けたいという学生やその後ろにいる保護者の意識が強いことで採用側の事業所との考え方の差に違いが出てきている。
- 例年と比べて学生の動向に大きな変化はありませんが、多様な特性を持った学生も増加しており、個別支援に力点を置いた取組を進めている。
- 保育士の求人は多いが、学生数が追いつかない。高校生の保育士志望者が少ない。
- 一般企業への就職を希望する学生について、就職をする意欲はあるが、応募へとなかなか進めない（一歩踏み出せない）学生が例年よりも多く、指導に苦勞した。

〔四国〕

- コロナの影響を大きく受けた学年であるため就活も二極化しており、その中でも特に就活に出遅れ、成果のなかなか出ない学生への支援に苦慮した。
- 変化したことは、WEB面接から対面での面接が増えた。成功したことは、大手企業から初めて求人を頂き、応募希望者を募り、色々と支援をしていき、内定を頂くことができた。
- 栄養士としての資格を活用した就職者数が0人だった事。
- 求人件数は前年度とほぼ変化なし。コロナによる影響で実習が延期となり、就職活動が先延ばしになる学生も中にはいた。丁寧に個別対応することで卒業までに全員進路を決めることができた。
- キャリア支援課スタッフによる「進路相談」・「履歴書添削」・「面接指導」など、個別対応を重視している。

〔九州〕

- 留学生の就職がやや回復したものの状況は厳しかった。
- コロナの緩やかな収束に伴う経済活動の再開を背景として、企業の採用意欲が高まり、売り手市場の様相が強まってきたことや、教員と同センターとで学生の就職活動状況に関する情報を共有し、教職一体でサポートしたことが就職率向上に繋がった。
- 就活の意識向上のため、企業座談会の早期実施に向けて活動している。
- 就職意欲を引き出すことに苦戦する学生が年々増えてきたように感じた。
- コロナ禍ではあったが、業績に影響が少ない業種を検討し学内説明会を実施、1年次の早い時期から就職指導を行ったこと等が良い結果に結びついたと考えられる。
- 企業に就職する学生が数名いるので、企業の情報も収集して学生に周知している。
- 企業希望者については短大生も大学生と同様の就職活動が引き続き求められている。また、全体共通事項として、オンライン説明会の場合、学生が就職先の実態を掴みにくいとの声が聞かれた。
- 窓口で対応した際に、各学生の希望職種・希望勤務地等を予めヒアリングしておくことで、ポータルサイトの告知・配信機能を併用したスムーズな求人紹介や面接対策用の資料提供などの支援を適切に行うことができた。
- 志望の多い航空関係が一部を除いて新卒採用を再開し、希望者が複数名内定したので安心した。ここ数年、就職観や価値観の多様化が顕著になってきており、年間を通して支援が続いて苦慮している。
- 進路に向けて意欲的に活動する学生と、そうでない学生の二極化がさらに進行した印象が強い。
- コロナの影響か、学校から近い学生の入学が増えた。就職希望地については地元近辺を希望する学生（特に保育学科）が多い。保育職への就職活動は比較的スムーズに行えた。一般職は希望職種とのマッチングがうまくいかない学生がいて最終的には希望していない職への就職者もいた。取り組みとしては、学校にきた求人情報を学内メールシステムを使い個別に情報を提供した。
- 自県内の就職者を増やすことを目的とした就職支援講座や留学生向けの就職支援講座を別途で実施した。
- ・コロナの影響で、幼児教育学科では園見学になかなか行けず、内定ピークが昨年より半月～1か月、後ろ倒しとなった。
 - ・卒業単位の修得に必死で、卒業後は就職せず、しばらくアルバイトをしながらゆっくりしたいと希望する学生が若干増加した。
- 今年度も、新型コロナ感染でWEB面接等が多かった。また、本学オリジナルの就職ガイダンスも、殆どがオンラインで実施した。
- コロナ禍も3年目を迎え、学生の就活の考え方や動き方が定着してきたことで、例年に比べ、大半の学生の進路決定時期の早期化が進んだ。ただ、コロナ前と同じく、就活への走り出しが遅い学生はやはり一定数おり、その学生たちへの声掛けや支援を強化することで全体の進路決定率の底上げに努めた。

- 一般企業・団体の職種については、コロナ禍を経て WEB 上でのエントリー・面接が増え、従来とは異なる就職支援を行う必要があった。また内定を得る時期も学生によって二極化が見られた。栄養士職においても全体的に就職活動への取り掛かりが遅く、特に栄養士課程において免許を取得できない学生は十分な企業研究をしないまま就職先を決定するケースが多く、早期離職や持続可能な働き方に影響があると思われる。幼保職については前年度同様コロナ禍の影響により自主実習など思うように進められず苦勞する学生も多かったが、各園の協力により最終的には希望の施設へ就職することができた。一般職・専門職どちらにおいても、今後、より早期の就職支援が求められると思われる。
- 短大にきた求人だけでなく、ハローワークや個人で積極的に就職活動する者が例年よりいた。
- 就職に対する取組みが遅い学生や友人と連れだって動くなど自立心にかける学生が増えたように見受けられる。就職に関してゆっくり決めればいいと考える保護者やアルバイトを希望する学生がおり、卒業時に必ず正規雇用で就職するという意識が変化している。外部組織との連携を利用することで就職に繋げることができた事例もある。
- 令和 3 年度に続き、コロナ禍での活動であったが、対面・オンラインの両方に対応できるよう、ソフト・ハードの充実を図ることにより、新たな支援体制を構築することができた。
- 入学前からコロナ禍にあたる学年でもあり、企業・団体への就職を目指す学科の学生には、入学当初から就職セミナーを行い、早期も就職意識の醸成を図った。スムーズに就職活動を行う学生もいる一方で、流れに乗り遅れた学生は卒業直前に活動を開始する学生もおり二極化が著しかった。

「令和4年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」アンケート

本協会就職問題委員会では、毎年、会員校を対象に『私立短大卒業生の卒業後の状況調査』を実施しており、私立短期大学卒業生の就職状況を把握するうえで、大へん貴重な資料となっております。

本年度も引き続き、令和4年度卒業生の卒業後の状況調査を実施いたしたく存じます。例年、Excelの調査票の提出をお願いしておりましたが、本年度はこちらのGoogleアンケートにてご回答いただければと存じます。つきましては、学務ご多忙の折まことに恐れ入りますが、【[回答の手引き](#)】に基づき、貴学の就職業務ご担当の方にご入力いただき、来る**7月11日(火)まで**に、ご回答くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、Google アカウントにログインしていない場合、[回答中に一時保存ができません](#)ので、上記の【[回答の手引き](#)】に記載の【[調査の設問内容について](#)】にて、予め回答内容を確認した上でご入力ください。

追って、本調査の集計結果は、後日報告書にまとめて、本協会ホームページ (<https://tandai.or.jp/shuushoku/chousa2023/>) にて公表予定です。何とぞご了承をいただきたく、よろしくお願いいたします。

※Googleウェブブラウザよりご回答いただくことをお勧めいたします。

* 本件に対する問合せ先 *

日本私立短期大学協会 事業課 早川、石田 (E-mailアドレス：shuushoku@tandai.or.jp)

jigyou1tandai@gmail.com [アカウントを切り替える](#)



* 必須の質問です

メールアドレス *

メールアドレス

※メールアドレスの入力について：ご回答内容が自動返信されます。なお、その返信メール内のURLより締め切り日の7月11日までご回答内容の修正が可能です。

貴短期大学名をご入力ください。 *

回答を入力

氏名をご入力ください。 *

ご回答いただいた内容についてお問合せさせていただく場合がございます

回答を入力

所属部署名をご入力ください。 *

回答を入力



電話番号（直通）をご入力ください。（ハイフンなし） *

回答を入力

1、令和4年度の卒業生の就職状況について伺います。

ここからは貴学における令和4年度の卒業生の就職状況についての設問が続きます。各設問における人数は、令和5年5月1日時点の本科第1部（昼間部）の状況をご入力ください。専攻科は対象外です。

※該当する卒業生がない場合には半角英数字で「0」と入力してください。

（1）令和4年度卒業生の出身学科名を全てご入力ください。（専攻・コース名 * は不要）

回答例）保育学科、食物栄養学科、看護学科

回答を入力

（2）卒業者の人数（全学科合算）をご入力ください。 *

※これ以降、人数は半角英数で数字のみのご入力をお願いいたします。

回答例）1000人の場合 → 100

回答を入力

（3）就職希望者の人数（全学科合算）をご入力ください。 *

回答を入力

（4）就職決定者の人数（全学科合算）をご入力ください。 *

回答を入力

（5）貴短期大学が所在する都道府県内において就職した人数（全学科合算） * をご入力ください。

回答を入力

2、就職決定者の内訳について伺います。

就職決定者の内訳として、企業・団体、公務員・行政職、専門職別に、正規雇用／非正規雇用の人数をそれぞれご入力ください。

※該当する卒業生がない場合には半角英数字で「0」と入力してください。



(1) 企業・団体に**正規雇用**として就職した人数（全学科合算）をご入力ください。*

回答を入力

(2) 企業・団体に**非正規雇用**として就職した人数（全学科合算）をご入力ください。*

回答を入力

(3) 公務員・行政職 に**正規雇用**として就職した人数（全学科合算）をご入力ください。*

回答を入力

(4) 公務員・行政職 に**非正規雇用**として就職した人数（全学科合算）をご入力ください。*

回答を入力

(5) 幼稚園教諭として**正規雇用**された人数をご入力ください。*

回答を入力

(6) 幼稚園教諭として**非正規雇用**された人数をご入力ください。*

回答を入力

(7) 保育士として**正規雇用**された人数をご入力ください。*

回答を入力

(8) 保育士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。*

回答を入力

(9) 幼保連携型認定こども園の保育教諭として**正規雇用**された人数をご入力ください。*

回答を入力



(10) 幼保連携型認定こども園の保育教諭として**非正規雇用**された人数をご *****
入力ください。

回答を入力

(11) 介護福祉士として**正規雇用**された人数をご入力ください。 *****
※「介護福祉士」ではなく、介護員や支援員などの名目で、介護施設や福祉施設に就職
した場合は、企業・団体に含めてご入力ください。

回答を入力

(12) 介護福祉士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。 *****
※「介護福祉士」ではなく、介護員や支援員などの名目で、介護施設や福祉施設に就職
した場合は、企業・団体に含めてご入力ください。

回答を入力

(13) 栄養士として**正規雇用**された人数をご入力ください。 *****

回答を入力

(14) 栄養士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。 *****

回答を入力

(15) 上記(14)までの設問以外の**その他の国家資格(※)**を生かして**正規 *******
雇用として就職した場合、その国家資格の名称と人数をご入力ください。

※小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、看護師、
准看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、視能訓練士、歯科
衛生士、歯科技工士、調理師、製菓衛生師、美容師(アイリスト含む)、自動車整備士、
救急救命士など

回答例) 看護師50、調理師30

その他の専門職が複数ある場合は、必ず「、(読点)」で区切ってください。

回答を入力



(16) 上記(14)までの設問以外の **その他の国家資格(※)** を生かして **非*** **正規雇用** として就職した場合、その国家資格の名称と人数をご入力ください。

※小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、看護師、准看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、視能訓練士、歯科衛生士、歯科技工士、調理師、製菓衛生師、美容師(アイリスト含む)、自動車整備士、救急救命士など

回答例) 小学校教諭5、図書館司書3

その他の専門職が複数ある場合は、必ず「、(読点)」で区切ってください。

回答を入力

3、就職以外の進路者数(全学科合算)について伺います。

※該当する卒業生がない場合には「0」と入力してください。

(1) 四年制大学へ編入した者の人数をご入力ください。*

回答を入力

(2) 短大専攻科へ進学した者の人数をご入力ください。*

回答を入力

(3) 専修・各種学校等へ入学した者の人数をご入力ください。*

回答を入力

(4) 一時的な仕事に就いた者の人数をご入力ください。*

※『一時的な仕事に就いた者』とは、主にアルバイト・パートの臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいいます。なお、派遣社員・契約社員などでも契約内容が不明な場合にはここに含めてご入力ください。

回答を入力

(5) その他(就職・進学等に該当しない者)の人数をご入力ください。*

※就職(アルバイト等含む)・進学の項目に該当しない者(就職未決定者、進路未決定者を含む)の人数をご入力ください。

回答を入力

4、令和4年度の就職・採用活動における総括についてお聞かせください。
(変化したことや苦労したこと、成功した取り組みなど、自由にご入力ください。)

回答を入力



「令和4年度私立短大卒業生の就職状況調査」回答の手引き

日本私立短期大学協会
就職問題委員会 R5.6.20

回答の手順について

○回答方法

下記の本協会ホームページにアクセスの上、調査フォームにご回答をお願いいたします。

URL : <https://tandai.or.jp/shuushoku/chousa2023/>

なお、本調査は「Google フォーム」を使用して行い、調査の回答を終了し送信をクリックしますと、本協会および登録メールアドレス宛に回答内容が自動返信されます。

※Google ウェブブラウザよりご回答いただくことをお勧めいたします。

○ご回答に際して

本調査は令和4年度に貴短期大学を卒業した学生の卒業後の状況についての質問となっております。なお、Google アカウントにログインしていない場合、回答中に一時保存ができませんので、下記の調査の設問内容についてをご覧ください、予め回答内容を確認した上でご入力ください。

○回答期限

令和5年7月11日（火）迄にご回答をお願いいたします。

回答上の注意について

1. 各設問における人数は、令和5年5月1日時点の本科 第1部（昼間部）の状況をご入力ください。専攻科は対象外です。
2. 「公務員・行政職」には、一般行政職、公立学校事務、消防士、自衛官、警察官等の職に就いた者の人数をご入力ください。
3. 有資格者であっても、資格を生かした職業に就いていない場合は、企業・団体もしくは公務員・行政職に含めてご入力ください。
4. 短期大学では取得できない国家資格・免許を有する者が貴学に入学し、就職する際、すでに取得していた資格を生かして就職した場合には、企業・団体もしくは公務員・行政職に含めてご入力ください。
5. 非正規雇用は、派遣社員・契約社員・臨時採用等で、雇用期間が一年以上（一年未満であっても、継続により一年以上雇用されることが確実な者を含む。）であり、かつ勤務形態が正社員に準ずるものの人数をご入力ください。
6. 卒業者数は、「就職決定者数」と「就職以外の進路者数＋その他（就職・進学等に該当しない者）」を合計した数になります。

調査の設問内容について

1. 令和4年度の卒業生の就職状況について伺います。

ここからは貴学における令和4年度の卒業生の就職状況についての設問が続きます。各設問における人数は、令和5年5月1日時点の本科 第1部（昼間部）の状況をご入力ください。専攻科は対象外です。 ※該当する卒業生がいない場合には「0」と入力してください。

- (1) 令和4年度卒業生の出身学科名を全てご入力ください。（専攻・コース名は不要）

回答例) 保育学科、食物栄養学科、看護学科

(2) 卒業者の人数(全学科合算)をご入力ください。

※これ以降、人数は半角英数で数字のみのご入力をお願いいたします。

回答例)100人の場合 → 100

(3) 就職希望者の人数(全学科合算)をご入力ください。

(4) 就職決定者の人数(全学科合算)をご入力ください。

(5) 貴短期大学が所在する都道府県内において就職した人数(全学科合算)をご入力ください。

2、就職決定者の内訳について伺います。

就職決定者の内訳として、企業・団体、公務員・行政職、専門職別に、正規雇用／非正規雇用の人数をそれぞれご入力ください。

※該当する卒業生がない場合には「0」と入力してください。

(1) 企業・団体に**正規雇用**として就職した人数(全学科合算)をご入力ください。

(2) 企業・団体に**非正規雇用**として就職した人数(全学科合算)をご入力ください。

(3) 公務員・行政職に**正規雇用**として就職した人数(全学科合算)をご入力ください。

(4) 公務員・行政職に**非正規雇用**として就職した人数(全学科合算)をご入力ください。

(5) 幼稚園教諭として**正規雇用**された人数をご入力ください。

(6) 幼稚園教諭として**非正規雇用**された人数をご入力ください。

(7) 保育士として**正規雇用**された人数をご入力ください。

(8) 保育士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。

(9) 幼保連携型認定こども園の保育教諭として**正規雇用**された人数をご入力ください。

(10) 幼保連携型認定こども園の保育教諭として**非正規雇用**された人数をご入力ください。

(11) 介護福祉士として**正規雇用**された人数をご入力ください。

※「介護福祉士」ではなく、介護員や支援員などの名目で、介護施設や福祉施設に就職した場合は、企業・団体に含めてご入力ください。

(12) 介護福祉士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。

※「介護福祉士」ではなく、介護員や支援員などの名目で、介護施設や福祉施設に就職した場合は、企業・団体に含めてご入力ください。

(13) 栄養士として**正規雇用**された人数をご入力ください。

(14) 栄養士として**非正規雇用**された人数をご入力ください。

(15) 上記(14)までの設問以外の**その他の国家資格(※)**を生かして**正規雇用**として就職した場合、その国家資格の名称と人数をご入力ください。

※小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、看護師、准看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、視能訓練士、歯科衛生士、歯科技工士、調理師、製菓衛生師、美容師(アイリスト含む)、自動車整備士、救急救命士など

回答例)看護師 50、調理師 30

その他の専門職が複数ある場合は、必ず「、(読点)」で区切ってください。

(16) 上記(14)までの設問以外の**その他の国家資格(※)**を生かして**非正規雇用**として就職した場合、その国家資格の名称と人数をご入力ください。

※小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、看護師、准看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、柔道整復師、視能訓練士、歯科衛生士、歯科技工士、調理師、製菓衛生師、美容師(アイリスト含む)、自動車整備士、救急救命士など

回答例)小学校教諭 5、図書館司書 3

その他の専門職が複数ある場合は、必ず「、(読点)」で区切ってください。

3、就職以外の進路者数(全学科合算)について伺います。

※該当する卒業生がない場合には「0」と入力してください。

(1) 四年制大学へ編入した者の人数をご入力ください。

(2) 短大専攻科へ進学した者の人数をご入力ください。

(3) 専修・各種学校等へ入学した者の人数をご入力ください。

(4) 一時的な仕事に就いた者の人数をご入力ください。

※『一時的な仕事に就いた者』とは、主にアルバイト・パートの臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいいます。なお、派遣社員・契約社員などでも契約内容が不明な場合にはここに含めてご入力ください。

(5) その他(就職・進学等に該当しない者)の人数をご入力ください。

※就職(アルバイト等含む)・進学の項目に該当しない者(就職未決定者、進路未決定者を含む)の人数をご入力ください。

4、令和4年度の就職・採用活動における総括についてお聞かせください。

(変化したことや苦労したこと、成功した取り組みなど、自由にご入力ください。)

就職問題委員会委員一覧

日本私立短期大学協会
(令和5年10月現在)

委員長	鈴木 利 定	群馬医療福祉大学短期大学部 理事長・学長
副委員長	柿 崎 雅 美	青森中央短期大学 キャリア支援課長
委員	小 塚 賢	北星学園大学短期大学部 就職支援課長
〃	長 津 一 博	群馬医療福祉大学短期大学部 地域連携・キャリアセンター
〃	橋 本 聡 恵	聖徳大学短期大学部 キャリア支援課長
〃	若 林 晃	千葉経済大学短期大学部 キャリアセンター キャリアアドバイザー
〃	永 岡 弘 美	東京家政大学短期大学部 学生支援センター キャリア支援課長
〃	鈴 木 あ久利	目白大学短期大学部 就職支援部長
〃	若 月 博 延	金城大学短期大学部 学生支援部部長補佐・教授
〃	中 島 和 成	愛知みずほ短期大学 キャリアセンター長 兼 キャリア指導室長
〃	有 本 昌 剛	関西外国語大学短期大学部 学長補佐・進路指導部長・教授
〃	山 田 雅 子	武庫川女子大学短期大学部 キャリアセンター次長
〃	増 田 智 也	安田女子短期大学 キャリア支援課長
〃	相 川 賢 士	西九州大学短期大学部 学生支援部 学生支援課長

(順不同・敬称略)

